
パラレルフロンティア

みづごろう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パラレルフロンティア

【ZPDF】

Z0959U

【作者名】

みづいじゅわ

【あらすじ】

パラレルフロンティアとは
デジモンフロンティアの一年後
そしてなんと、ほかのデジモンシリーズはもちろん
男の子もののアニメから女の子の子もののアニメまでパラレルワールド
(異世界)として登場させちゃいまーす(道具だけのものもあるけど)

有名なアニメからデジモンと名前が似ているものも登場させちゃいます

オリジナル設定、オリジナルキャラ、オリジナルモンなどもあります

さらに恋愛あり、笑いありの楽しい作品にしていこうと思います

人物紹介（前書き）

今回は人物紹介編だよ、全員の紹介が終わつたら、前書きと後書きで私と拓也達とでトークをやつちゃいます
では人物紹介どうぞ

人物紹介

人物紹介

神原拓也

炎の闘士アグニモンに進化できる正義感が強く明るい熱血漢。

運動神経抜群で、サッカーが得意。

ひそかに泉に思いを抱いてる。

料理のセンスはダメダメで同レベルの輝一と競つてボコモンとネーモンが無理やり審査員をやらされたことも。

キメ台詞は

「汚れた悪の魂よ、このデジヴァイスで浄化する！デジコードスキヤン！！」

源輝一

光の闘士、ウォルフモンに進化できる

拓也と違つてクールで無口な一匹狼だが、シャイな部分もある。

双子の兄、輝一が加わつて単独行動もなくなり、少し明るくなつた。まだ、ウォルフモンになれなかつたころ純平たちを助けるため棒術を披露した。

冷たい印象が強いが、本当はシャイで仲間思いで優しい心の持ち主。料理のセンスは拓也と同レベルで泉達がさらわれたことも知らないで料理対決をしていたこともあった。

キメ台詞は

「闇に蠢く魂よ、聖なる光で浄化する！デジコードスキヤン！！！」

織本泉

風の闘士フェアリモンに進化できる

イタリアからの帰国子女で、時々イタリア語で話す癖がある
仲間達の相談役で輝一がダスクモンの罪悪感があつて輝一とじつまく
接することができなかつた輝一を励ましたこともあつた。
ひそかに拓也に思いを抱いている。

キメ台詞は

「爽やかな風に乗せ、このデジヴァイスが美しくピュアな心に浄化
する！デジコードスキャン！！」

柴山純平

雷の闘士ブリッソモンに進化できる

手先が器用で手品が得意。

以外にもいろいろな知識を持つている。

泉に一日惚れをし、何度もアタックしているが失敗に終わつてゐる。

そのため泉にけむたがられてゐる。

一番不思議なのは手品でも大好物のチョコをだす黄色い胸ポケット
チョコは、なぜか無限にでてくる

キメ台詞は

「悪に染まりし魂を、我が雷が浄化する！デジコードスキャン！」

氷見友樹

氷の闘士チャックモンに進化できる

泣き虫で臆病だが人一倍勇氣がある。

ちなみに本当の勇氣を教えてくれたのが拓也で

拓也がビーストスピリットで暴走したとき勇氣の恩返しをしたこと
もある。

キメ台詞は

「いじめ、いじわる許せない！このデジヴァイス氷のように勇氣を
固めて浄化する！デジコードスキャン！」

木村輝一

闇の闘士レーべモンに進化できる

輝二の双子の兄だがケルビモンによつてダスクモンのスピリットを植え付けられ輝二と戦う運命に犯されるが輝二によつて元の人間の姿にもどる

そのあとレーべモンとカイザーレオモンのスピリットを手に入れ正式に拓也達の仲間になつた

性格は思いやりが深い性格

キメ台詞は

「乱れし邪悪な心よ、闇に埋もれて眠るがいい！」このデジヴァイスあ浄化する！デジコードスキヤン！！」

人物紹介（後書き）

みづ「いやー、やつと書き終わつたよ
たくや「おい、みづ」ひりつ」

みづ「ん？」

たくや「なに余計なことかいてるんだ」

こうじ「たくやはともかく俺のことは書くな」

みづ「つていうか作戦を忘れて料理対決に集中していた人達に言わ

れたくないよ！！」

泉・純・友「確かに・・・」

こういち「そんなことより次回予告・・・」

一同「はつ」

みづ「次回は渋谷が大変なことに！・・・」

ともき「えつ！」

たくや「渋谷が！！」

次回もお楽しみにね！

こうじ（次回つてこれただの人物紹介だけどな）

0・5話 プロローグ（前書き）

「拓也の家へ

たくや「信也、兄ちゃんちゅうと用事があるから出かけてくるから
しんや「うそ、兄ちゃんが前話してた友達に会いに行くんだよね？」
パーティーまでには帰つてきなうね」

たくや「あ、もちろんんだ。ん？あ、もつこんな時間だ……、いや

いつでくる」「

しんや「うそ、こいつはうしゃー

0・5話 プロローグ

（

「ん？」

ペ
ジ

「あ、」「うちか？」「うそ分かった」

たくや「おーこ、」「一

「たくや」「たくや…」

拓也が来た

たくや「クリスマスぶつ」

「あ」

たくや「あれ…」「ちがってつてつたけど…」

「俺達は一緒に住んでいる訳じゃないからな、みんなと同じ現地集合だ」

たくや「ふーん」

「あ、でも」「うちは少し遅れるわ

たくや「え？…なんでだ？」

「うひご」 「急な練習試合だつてやれ」

たくや 「断ればここのこと……」

「うひご」 「一方的に電話切られたとやれ」

いすみ 「たくや……うひご……」

泉が待か合わせ場所に着いた

じゅんpei 「泉ちゃん」

そして純平も着いた

セントレジスモウルのうとを語った

いすみ 「でも輝くんはこことして」

たくや 「友樹おつやいなー」

その頃輝一は

「うひご」 「はあはあ、みんなもつ着いてるよな」

「うひご」 「わひうひりでいいかい」

「うひご」 「でも……」

「うひご」 「ん? 今の声は?」

輝一は声のするまつへと向かっていった

「うちち「友樹！！」

ともき「輝一さん！？」

友母「あなたは？」

「うちち「僕は木村輝一です。心配しなくとも友樹君は、僕達が責任をもって送り届けます。」

友母「やつ…じゃあお願ひしますね」

そうこうて友樹のお母さんは帰つていった

「うちち「や、行こつか」

ともき「はい。」

そして30分後

「うちち「すみ、遅れた」

たくや「遅いぞ！」

いずみ「まあ、いいじゃない。久しぶりに会えたんだから

じゅんpei「さすが泉ちゃん！心が広い」

「うちち（純平は、中学生になつても変わらないな・・・」

たくや「やうだ！みんな携帯もつてきたか？」

みんな「わからん…」

みんなが携帯を出したとたん

ビビビビ

イハジ「なんだ…？」

いづみ「地震…？」

ヒヤキ「見て…」

みんな「…」

友樹に言われて見たらみんなは言葉をつしなった

イハジ「ト・トジモン…？」

そうみんなが見たものとは拓也達がよく知っているトジモンだつたのです

じゅんpei「な・なんで」んな所にトジモンが？

イハジ「でもなんかあのトジモン達おかしいや…？」

いづみ「まるでなにから逃げてこるよつて見えるわ

? ? ? 「助ける、助けるー」

? ? ? 「助けてー」

たくや（ん？）の言葉どりかで・・・）

ドン

たくや「うわー！」

? ? ? 「おやーーーの顔は・・拓也はんーーー！」

じいこち「ボクモンーーー！」

じいじ「ネーモンーーー！」

ネーモン「あー、みんなも、久しづりーーー！」

たくや「あの、助けるって、なにから？」

ボクモン「やうじゅ、忘れてたぞーーー！」

ネーモン「忘れてたーーー！」

たくや（この展開前にもあったような・・・）

? ? ? 「ふふふ、ついに、ついにきたぞ！我が野望、人間界」

0・5話 プロローグ（後書き）

みづ「ふう疲れた」

たくや「お前はいちいちそれ言わないと気がすまないのか?」

みづ「だつてー」

いずみ「でもあの謎の『デジモン』いつなんなかな?」

じゅんpei「気になるよね」

ともき「でも怖いなー」

みづ「そんなことより次回は」

拓・泉・純・友

みづ「謎の美少女が登場」

こうじ「謎の美少女!?」

みづ「ここだけの話、双子!」

こうじ「双子!?」

たくや「輝一達のほかにも双子が!?」

みづ(ニヤリ)

ともき(な・なにかたくらんでる?)

みんな「次回もお楽しみにー」

1話 謎の美少女プロジェクト（前書き）

？？？ 1 「初めまして」

？？？ 2 「謎の美少女でーす」

みづ「ちよつとー、なに勝手に前書きに出しきりやつてるのー? あんた達のことは次の回の後書きで簡単に紹介するからーーー。」

？？？ 2 「なんで簡単なのよー」

みづ「あんた達は謎の美少女つていう設定だから」

？？？ 1 「ま、そういうことならしようがないか」

？？？ 2 「なに納得しちゃつてる訳! ?」

？？？ 1 「もう、設定なんだからしかたないでしょー。ヒ「わーわー」
みづ「もうーーあんた達の名前はまだ極秘なんだから言っちゃダメ
でしょ」

？？？ 1、 2 「いめんなさい」

みづ「とこつわけで本編スタートーーー。」

1話 謎の美少女デジモン

「ううじ「なんだ！あのデジモンは！？」

ボコモン「あれば、七大魔王の一人、憤怒を司るデーモンじゃい」

こういち「七大魔王？」

ネーモン「えっとねー七大魔王っていうのはねー」

ボコモン「となるとぎじやわい！」「ゲームパッ chin」

パッ chin

ネーモン「いつてー」

ボコモン「七大魔王っていうのはな、七つの大罪おかしたデジモン
であるルーチェモンも七大魔王の一人なんじや」

じゅんpei「あ、あのルーチェモンが」

いづみ「七大魔王！？」

「ううじ「じゃあルーチェモンと同じ力を持つっていい」とか！？」

ボコモン「同じ力を持つか、あるいはそれ以上つていい」ともある
ぞい！」

たくや「マジかよ！？」

ともき「そういえばスピリット達と3大天使デジモン達はー?」

ボコモン「やつらは封印されてしまったハラ・・・」

いずみ「そんな・・・」

???:「あきらめのは、まだ早いんじゃない?」

???:「どんな時だつてあきらめない、それがあなた達の取り柄じゃないの?」

みんな「!-?」

みんなが振り返るとそこには可愛いビースト型デジモンいた

????:「初めまして、ムーンビットモンです」

ムーンビットモンと名のるデジモンは人が乗れる大きさのウサギで、水色の体に、頭に月の王冠があって、首には月のネックレス、黄色い翼の生えたデジモンで、なんとその王冠には伝説の十騎士のマークに似ている黄色いマークがあったのです

????:「私はフラワーモン、よろしくね

フラワーモンと名のるデジモンは人を乗っけられる大きさの猫で、体の色は桃色で、頭には花の王冠、首には花のペンダントがある。そして背中には花ができる翼があつて、尻尾も花ができるいて、ムーンビットモンと同じく十騎士のマークに似ているピンク色のマークが王冠があつたのです

デーモン『ケイオスフレア』

デーモンは、拓也達に技をはなつた

たくや「逃げる……」

ともき「うわっ……」「

友樹は転んでしまった

たくや「友樹……！」

そこにはばやく友樹を庇つた影が

ともき「輝一さん……！」

こういち「大丈夫か？」

ともき「僕は大丈夫ですけど、輝一さんが……」

こういち「俺？俺は大丈夫だ……痛つ

輝一は、技こそは受けはいなかつたが友樹を庇つた時に肩を強くぶつけていたのだ

フラワーモン「怪我してるじゃない……！」

ムーンビットモン「大丈夫よ、その程度の怪我ならフラワーモンが治療できるから」「

「ハハハ」「やうなのか?」

「フワワーモン」「ええ、まかせとこで」

「フワワーモン『アロマセラピー』

フワワーモンが、技をはなつなど、輝一の怪我がみるみる治つていぐじやありませんか

「うこち「怪我が治つた」

たくや「スゲー」

いづみ「輝一くんだけじゃなく私達までなんか癒される感じ」

ムーンビットモン「フワワーモンが囁く力は花、つまり花といえば癒してくれるイメージでしょ?つまりは癒しの力を使えるってことなのよ」

「フワワーモン「あらそろ本題にはいりたいんだが」

「ムーンビットモン「そ・やうね」

「ムーンビットモン「ムーンビットモンー・スライドエボリューションー!ムーンラビモンー!」

「フワワーモン「フワワーモンー・スライドエボリューションー・ライナーモンー!」

たくや「ス・スライドエボリューションした」

じゅんpei「なんで十騎士以外がスライドエボリューションできるんだ?」「

ムーンラビモン「それは後で話すわ」

ライナモン「それよりあなた達にお願いがあるの」

トモキ「お願ひ?」

ムーンラビモン「ええ、あなた達には私達と一緒に戦つてもらいたいの」

みんな「ええ-----」

たくや「で・でも俺達は進化できないんだぞー?」

「ひび」「それなのこどりひつて戦えと?」

ライナモン「心配」無用」

ムーンラビモン「携帯ある?」

じゅんpei「そりゃあ今日は初めてデジタルワールドにこつた日だからな」

ライナモン「それはよかつた、じゃあ携帯出して」

たくや「あ・ああ」

拓也達は、携帯を出した

ムーンラビモン「じゃあこくわよ」

そうこうしたとたん拓也達の携帯が光だした

「うーち「な・なんだ!?」

そしたら拓也達の携帯がまるまる姿が変わつて「くじゃないですか

「ハジ」「テ・デジヴァイス?」

「すみ」でも、よくみると、前のとトザインが少し違つよつた

ボコモン「でも変じやぞ!」

ネーモン「變つて~?」

ボコモン「だつてスピリットは3大天使デジモンと一緒に封印され
とつたはずじゃぞ!」

ライナモン「もし、その封印を私達がとったとしたら?」

たくや「じゃあ3大天使デジモンも?」

ムーンラビモン「確かに封印はといたけど、3大天使デジモンのデ
ジタマに変な呪いがかかってて」

ライナモン「詳しく述べて話すからとつあえず今はこの場をなんと

かしたこと」

たくや「みんな...」
「...」

みんな「おひー...」

みんな「スピリットハボコーハン...」

たくや「アグー!!」

「ハハハ」「ウォルフモン」

いすみ「フロアリモン」

じゅんpei「ブロッッシモン」

とわき「チャックモン」

「ハニカム」「レーべモン」

ボロモング「おお、伝説の十體十の復活! ジャーーー!」

1話 謎の美少女テジモン（後書き）

みづ「と、いう訳で次回は『よしよ』モモンと対決……」

じゅじ「あのライナモン達はなにものなんだ？」

みづ「それは次回の次回わかるよ」

ライナモン「つて次回じゃないのー？」

ムーンラビモン「前書きと書いてること違うんじゃないー！」

みづ「ま、細かいことは気にしないー、気にしないー」

みんな（こんな作者で大丈夫かな？）

みんな「次回もお楽しみにねー」

2話 こきなり敗北!~テーコンをトジタルワールドに追に返せ(前書き)

たくや「おこおこ、こきなり敗北つてなんぞいつなるー?」

みづ「いやー、こきなり七大魔王の一體を倒すのもあれだし・・・」

こづじ「そんな理由で・・・」

みづ「それに、文句ばつか言つてゐたどあんたらルーチュモンや、

その手下にも負けじるじやん」(最終決戦の時にやつと倒したナギ)

みんな「グサツ」
みづ「文句ばつか言つてゐる」(こいつはまつとこで本編はじまるよ
「

みんな(なんか)機嫌になつてゐる・・・)

2話 いきなり敗北！？デーモンをデジタルワールドに追い返せ

デーモン「ふははは、ルーチェモンよ、お前ができるなかつた人間界征服を、今我が果たしてやるのではないか！！」

「？？？」なに勝手に決めてんだ！！

デーモン「なに……お前らは確かに我々が、倒し、封印したはずだ……」

「？？？」ふん、その封印が何者かに解かれたとしたら？、

デーモン「だが、お前ら伝説の十騎士でも、我は負けん！！」

「？？？」ほう、その自信、今から我々が消し去つてくれよう

アグニモン「そひ、この俺達伝説の騎士がなーみんな、いくぞー！」

みんな「おうーーー！」

デーモン「なまこきな、小僧達だ・・消し去つてくれるーーー！」

デーモン『フレイムインフルノ』

レーベモン「まかせてーーー！」

ライナモン「まかせてーーー！」

そういうと、一人はどこからか、盾をだし、必死に攻撃を防いだ

レーベモン「くつーうわつ」

ライナモン「わやつ」

そうじうと二人は吹き飛ばされてしまった

ヴォルフモン「レーべモンーー！」

ムーンラビモン「ライナモンーー！」

レーべモン「くつ、大丈夫だ」

アグニモン「よくもーー！」

ヴォルフモン「アグニモン、よせーー！」

アグニモン『バーニングサラマンダー』

デーモン「こんな技、きかんわーー！」

デーモン『ケイオスフレア』

アグニモンは、間一髪避けた

アグニモン「ふう、危ない、危ない」

ヴォルフモン「だから、いつたんだ」

ライナモン「みんなの力を合わせなくちゃ勝てるものも勝てなくな

「ねむりやないよ

ボロモン」「やのとおじさん

ブロッショング」とつあくべー今のおまじゅうと無理があるな・・・

「

フュアリモン「久しぶりにペーストになるわよ

みんな「ああ

ライナモン「もつあがつてねむりやねんなこねだ

ムーンリビモン「あんた達はペーストにはなれないわよ

みんな「ええーー

アグニモン「なんで、なんでペースト進化ができるないんだー!?

ムーンリビモン「されば

ライナモン「封印を解いたと同時にじいかにつけた・・・

レーベモン「まあ、ペーストは獣型スピリットだから落ち着きせいだるうつむ

ライナモン「でも、倒す」とはできないかも

ムーンリビモン「違う返す」となりできぬじやない?」

フュアリモン「どうやつて?」

ライナモン「私に考えがあるわ」

『ヒョウ』

ライナモン「わかった?」

みんな「OK」

ムーンラビモン「じゃあさっそく行動開始よ」

別行動になり、ライナモン率いるアグニモン、チャックモン、フュアリモンは、デーモンがいる方向とはまったく違う方向にいった

デーモン「む?逃がせん!」

どーん

レーベモン「お前の相手は」ひちだ!!

デーモン「ふん、ならお前達を先に倒してからやつらを倒す!」

ムーンラビモン「来たわよ、ウォルフモン!」

ウォルフモン『リヒト・クーゲル』

ムーンラビモン「私もいくわよ!」

ムーンラビモン『ムーンラビッシュトショート』

「マーンラーブモンゼ、田畠のエネルギー弾を、蹴った

『テーキン「ふふ、いろんなものあぐらかわせる……」』

「マーンラーブモン「ニヤニ」

その時かわされたエネルギー弾にいつひもみが生え、田畠でドドンと

『テーキン「なにー?」』

「マーンラーブモンテジゴーテゼ、なんどもマーンモンに襲いかかってくる

『テーキン（なまびせ）』

「マーンラーブモン「ーー.」

などとテーキンはマーンラーブモンを盾にすりこつたことでもベタな戦法にてた

マーンラーブモン「なーさやつて、そんなベタな戦法で勝てぬと困つてゐるーー.」

『テーキン「なーっ.」

「マーンラーブモン「マーンラーブモン.」

「マーンラーブモン「マーンラーブモン.」

ルウ テーク

「デーモン」「ぐわあああ

ムーンラビモン「みんな、いまよー。」

レーベモン・エントリビ・メテオール』

『スコットランド・エニグマ』

モントリビト・ケルケ川

元モジンお前らの攻撃なんかさがんといつていい

元モジンは、そういうふうとみんなの攻撃を躊躇せずに

みんな
—
うわあああ

そのとき！――デーモンの後ろにデジタルワールドに繋がるロードが現れた

ライナモン「まさにあつたー！」

アグニモン「みんなー！」

ムーンラビサン「みんなもつ一息よーがんばつてーーー」

みんな「おうーー！」

アグニモン『バーニングサラマンダー』

チャックモン『スノーボンバー』

フェアリモン『ブレッザ・ペタロ』

ヴォルフモン『リヒト・クーゲル』

レーベモン『エントリビ・メテオール』

ブリッツモン『トルハンマー』

ムーンラビモン『ムーンショット』

ライナモン『ラーナルショット』

デーモン「効かん、効かんわ」

そういうてーモンは、みんなの技を吹き飛ばした

みんな「うわ――――」

デーモン「今日は少し疲れたから帰るとするが、また会おう伝説の
十騎士! ふはははは」

そういうてーモンは、かえつていった

2話 いきなり敗北! ? テーモンをデジタルワールドに追いつめ (後書き)

みづ「ああ、次回はあの『トジモン』の正体が分かるよ」

たくや「しかし、本当に俺達やられちゃったんだな」

じゅんpei「でも、あれが、俺達の最後の進化だつたんだな」

みづ「え? 誰がそんなこといつた?」

みんな「え! ?」

ライナモン「私達の本当の目的は、あなた達とも関係しているのよ」

こうじ「本当の目的?」

みづ・ライナ・ムーン「それは次回あきらかになる! ! !」

みんな「次回もお楽しみに」

3話 パラレルワールドからの訪問者（前書き）

みづ「いきなりだけどみんなはパラレルワールドのこと知ってる?」
たくや「本当にいきなりだな・・・」
こうじ「でもパラレルワールド・・・あんましきかないいな・・・」
じゅんpei「たしか、異世界っていう意味じゃなかつたつけ」
みづ「純平正解!今日はそのパラレルワールドから人間が来てるから、その相手は本編で会つてね」
みづ「と、いうわけで本編スタート」

3話 パラレルワールドからの訪問者

アグニモン「くそっ、ぜんぜん敵わなかつた」

フェアリモン「今日は完敗ね・・・」

ライナモン「とりあえず、傷を癒しましょう」

ライナモン『ライナモン、スライドエボリューション』

フラワーモン『フラワーモン』

フラワーモン『アロマセラピー』

フラワーモンは、技を放つとみんなの傷が癒えていく。だが、フラワーモンの傷はなぜか癒えなかつた

フラワーモン「くつ」

そういうとフラワーモンは、デジコードに包まれ、人間の姿になつた

拓也達も進化を解く

ともき「に・人間!?」

? ? ? 「ヒカリ!! 大丈夫?」

慌てた様子でヒカリと呼ばれた少女に近づく少女、そしていつの間にかムーンラビモンがいなくなつていた

？？？「私は大丈夫よ、ちょっと疲れただから、サヨ」

？？？「もう、心配かけないでよ」

「うじ」「お前ら、人間だったのか・・・」

？？？「まあね、この姿は初めてだもんね」

？？？「私は、姉の月野サヨ」

？？？「私は、妹の太陽ヒカリ、初めまして」

たくや「姉、妹といふことは・・・」

ヒカリ・サヨ「私達、姉妹でーす」

じゅんpei「でも、二人とも同じ年っぽいぞ」

サヨ「そりゃあ私達」

ヒカリ「双子だもんね」

みんな「えええええ」

じゅんpei「でも、外見とか、服装とか全然ちがうぜーーー」

サヨ「悪かったわね、似ていなくて」

ヒカリ「まあまあ、でもよくみたら私達の服装は色は違つても形は

一緒に

じゅんpei 「あ、ほんとだ」

いりへん 「曲序も違つたぞ」

サヨ 「あんた達も、違つでしょ」

いりこち 「じゃあ俺達と同じ生き別れか?」

ヒカリ 「ま、そういうのね」

ともき 「どうから来たんですか?」

サヨ 「生まれははの隠れ里、育ちは少しだけ東京に住んでた」と
があるわ

ヒカリ 「私は、一年生前後の記憶がないの・・・」

（いりこち）一年生前後の記憶がない?記憶喪失つてこりやつか?）

いりこち 「少しだけつてこりやつ?」

サヨ 「私達はパラレルワールドからきたの」

みんな 「パラレルワールド!?」

ともき 「パラレルワールド?」

ヒカリ 「簡単にいえば別世界ってことね

ともき「別世界！？本当にすごいところから来たんですね」

「ううじ「で、そのパラレルワールドの住人がなんの用だ？」

サヨ（ムカツ）

ヒカリ（まあまあ）

「ううこち（あれ、輝一）、サヨに対してなんか冷たい？」

「ううこち（ま、まあ、それは確かに気になるな・・・）

ヒカリ「私達は、パラレルユニオン所属なの」

いずみ「パラレルユニオン？」

サヨ「そ、パラレルユニオンは要するにパラレルワールドの住人を別世界のものが困らせたり、悪いことをしたら、倒したりしなきやいけないし」

ヒカリ「また、その住人だけで解決しがたい問題を私達が協力してあげるの」

サヨ「時には、未来や過去に行つて未来を変えようとしたりするものもいるわ」

ヒカリ「そこは、私の造ったタイムマシンの出番つていうわけ」

みんな「タイムマシン！？」

サヨ「それで、私達はあなた達に、パラレルユニオンに入つてほしいわけ」

みんな「はあ？」

ヒカリ「だから、私達はパラレルユニオンに入つてほしいの」

たくや「でも・・おれ、弟の誕生日・・・」

サヨ「別に明日でもかまわないわよ」

ヒカリ「家族団らんは大切だもんね？それは、私達がよく知ってる
もの・・」

こういち「もしかして・・お前ら家族がいないのか？」

ヒカリ「家族？家族ならいるわよ」

サヨ「私達の家族は、デジモン達と、仲間達」

じゅじ「本当の母さん、父さんは？」

ヒカリ「・・・本当の父さん、母さんは、殺し屋なんだって・・・」

みんな「・・・」

サヨ「怖い？怖いでしょ？」

そういうてる一人の体は震えていた

サヨ「私達は、一般の人たちに怖がられて育つてきた・・・」

ヒカリ「そんな私達を支えてくれたのが、サンシャインシティと、
ダークムーンシティのみんなとデジモン達なの・・・」

たくや「俺達は別に怖いとなんて思つてないさ」

サヨ・ヒカリ「...?」「..」

ともき「やうだよ

こういち「俺達の傷も癒してくれたし」

いづみ「それに、あんなやせしい月の光

いづじ「そして、癒しの力を持つてるんだ」

じゅんpei「怖いとなんて思ひはずがないじゃないか

ヒカリ「じゃあ

みんな「もちろん入るぞ、パラレルユニオンに!」

ヒカリ「んじゃあ、そのデジヴァイスは、デジモン図鑑の役目もしていいから

サヨ「それと、これ

サヨは、みんなにそれぞれのマークがはいった警察手帳みたいなも

のを渡した

たくや「なんだこれ？」

サヨ「その手帳は、国際警察の印みたいなものね」

「うごち」、「国際警察・・・」

ヒカリ「デジタルワールドでは、デジヴァイスでも通用するけど、人間界ではさすがにデジヴァイスをみせるわけにもいかないでしょ」「うごち」

サヨ「その説明はあとでーあなた達にさつそく指令よー！私達は、チームになつてフロンティアエリアにでてきた七大魔王のうち、六体の魔王たちを倒せだつて」

ともき「その前にちよつといいですか？」

サヨ「ん？な」「？」

ともき「フロンティアエリアってなんですか？」

ヒカリ「パラレルワールドっていつもこりこりあるからね、それぞれの名前で呼んでるの」

サヨ「ちなみにフロンティアの意味は線路つていう意味よ

ヒカリ「じゃあ早速出発よー！」

たくや「で、でも・・・」

ヒカリ「大丈夫！！やつをタイムマシンを発明したつていったよね
？」

ともき「そつか、それなら安心だね」

いづじ「でも、どうやって行くんだ？」

サヨ「心配ないわ』リロード、バスモン、ルナルナ』

ヒカリ『リロード、バスモン、キャッキー』

ヒカリとサヨのデジヴァイスから、バスモンと呼ばれるデジモンが現れた

ルナルナは、ウサギみたいな耳をしていて、体は水色をしている

キャッキーは猫みたいな耳をしていて体はピンク色

たくや「スッゲー……」

ヒカリ「あなた達のデジヴァイスにもインプットされてるからデジタルワールドにいつてからだしてあげて」

サヨ「じゃあいくわよ」

みんな「おお————！」

そういうてみんなはバスモンに乗つてデジタルワールドに向かつた

3話 パラレルワールドからの訪問者（後書き）

月野サヨ

しつかりしたお姉さん、でも怒ると怖い

顔立ちは、目は紫色で髪は、薄い紫で髪型はロング
服装は、黒いTシャツに濃い紫のサロベツトワンピ
そしてワンピースと同色のふたつわれ帽子に黒いゴーグル

太陽ヒカリ

元気で明るい性格だけど以外にしつかりして
顔立ちは青い瞳をしていて髪は黄色で髪型はロング
服装は水色のTシャツにピンクのサロベツトワンピ
左腕に青のサポーター

そしてワンピースと同色のふたつわれ帽子に白いゴーグル

みづ「これが大体の服装かな？じゃあさっそく次回は操られたデジ
モン達が、拓也達の前に立ちはだかる」
たくや「操られたデジモン達！？」
ヒカリ「さつそく大ピンチ！？」
みんな「次回もお楽しみに」

4話 フロンティアワールドへ突入（前書き）

みづ「いやーついにフロンティアエリアに突入だね」
たくや「でも、あの一人の正体は、わかつたけどまだ謎だらけなんだよな」

みづ「そうだ、ヒカリたちの服装は、まだ続きがあつたんだ」
たくや「??」

みづ「えーっと、ヒカリは黄色いレギンスをはいてて、サヨは黒いレギンスをはいてます」

たくや「それだけかよ」

みづ「あ、あとさつき拓也がいつてた謎のひとつが解明されまーす」

たくや「おお」

みづ「とこう」とで

みんな「本編スターート」

4話 フロンティアワールドへ突入

キャツー「じゃあいくにゃん」

キャツー『パラレルトリップ、デジタルゲートオープン』

たくや「ふー、久しぶりのデジタルワールドだ」

いずみ「意外とすぐについたわね」

じゅんpei「トレールモンはジェットコースターみたいな線路があるもんな」

キャツー「ちょっと疲れたにゃん」

ヒカリ「お疲れ、キャツー」

ヒカリはそういうと『デジヴァイスの中にキャツーをしまった』

じゅんpei「あれ? キャツーはもう『デジヴァイスにしまうのか?』

ヒカリ「うん、パラレルトリップした後はばくだいなエネルギーを使うからね」

サヨ「ちなみに私のルナルナもパラレルトリップしたあとよ

ヒカリ「バスモンは移動手段としても使えるけどまだこの地図をインプットしてないから」

「うじ、「つまり地図がインプットされたるパラレルワールドもあればインプットされてないエリアもあるってことか」

「うごち「おれたちにもバスモンがいるっていってたよな?」

ヒカリ「バスモンは

サヨ「こらにはこらナビ、ビーストスピリットがなきや実体化できな」のよね」

ヒカリ「……なにかくる……!」

たくや「ビーストデジモンだ!!」

ともき「でもなんかおかしいよ」

「うごち「あれをみる……」

「うじ「額に・・・闇のマーク」

サヨ「わかった、あのマークがデジコアを暴走せしめるんだわ」

ヒカリ「ね・ねえ、サヨ? あの大群の中にケルベロモンはいる?」

たくや「俺がはじめてデジモンになつて戦つたやつか?」

「うじはケルベロモンのデータを調べた

デジヴァイス「ケルベロモン魔獣型デジモン、ワクチン種必殺技はインフェルノゲート、ヘルファイア

地獄の番人といわれている

サヨ「こ、・・・わね」

サヨがセツヒトヒカリは青ざめた表情になつた

「う、ちがそ、うと急に左腕を押されてしまつた」

「う、ちがそ、うと急に左腕を押されてしまつた」

ともき「え、ビビったんですかー?」

サヨ「ヒカリはケルベロモンが近づくだけでもこのサポーターの中の傷が痛くなるの、といつてもそれは精神的なものなんだけどね」

「う、ちがそ、つまつ、ヒカリはケルベロモン恐怖症つてう」とか?」

サヨ「ま、そんなところかしらね」

いづみ「そんな話をしている間に・・・囮まれひやつたわよー」

サヨ「と、とりあえず」

みんな『スピリットエボリューション』

たくや『アグニモン』

じへん『ウォルフモン』

いづみ『フロアリモン』

じゅんpei『ブリッジモン』

ともき『チャックモン』

こひこち『レーべモン』

サヨ『マーンビットモン』

マーンビットモン「みんなー額の闇のマークを塗つよーーー。」

みんな「おうーーー。」

レーべモン『ホーヴィッシュ・シューラーフ』

アグニモン『ファイアーダーク』

ヴォルフモン『リヒト・クーゲル』

ブリッジモン『ハラルールサンダー』

チャックモン『ジララララ~』

フエアリモン『ブレッザ・ペタロ』

ムーンビットモン『ニンジンダーク』

みんなはケルベロモンを最優先に次々と操られてるものを正気に戻していくた

モノクロモン「操りられてたとはいえ襲つてしまつて申し訳ありませんでした」

ケルベロモン「俺達を助けてくれてありがとうございます」

サヨ「わかつた、わかつたからもう帰つて」

デジモン達「本当にありがとうございました」

そうこうとデジモン達は自分の縄張りへと帰つていった

たくや「しかしあるせないよな関係ないデジモン達を操るなんて」

じゅんpei「本当だよな

ともき「あ、ターミナルに着いたよ」

いづみ「ちゅうじアトレールモンもきたみたいよ」

トレールモン「ポー——————」

そうこうとトレールモンは超特急でターミナルをとおつすぐつてこつた

たくや「な、なんだ!?」

ヒカリ「見えた?」

サヨ「ええ、鋼の騎士のマークがあつたわ」

みんな（動体視力はんぱねえ）

たくや「闇の闘士の次は鋼の闘士か」

ヒカリ「とりあえず追うわよーーー！」

4話 フロンティアワールドへ突入（後書き）

たくや「ヒカリにあんな弱点があつたとはな」
みづ「意外な真実でしょ？」

ヒカリ「真実より次回予告」

みづ「次回はトレールモンとの追いかけっこ」
たくや「それは、いくらなんでも」

こうじ「ないな」

ヒカリ「私たちの本当の実力みるがいい」

みんな「えつ！？」

みんな「次回もお楽しみに」

5話　トレールモンを追え（前書き）

みづ「臨時一コースをお戻えします」

みんな「！？」

みづ「トレールモンがすゞいスピードで暴走しています、フロンティアチームは直ちにトレールモンの暴走を止めてください」

みんな「なつに―――」

じゅんpei「ただでさえピーストになれないで苦労しているのに……」
いすみ「あんな猛スピードのトレールモンをどうやって追いかけるつていうのよー」

みづ「まあ、細かい」とは気にしないで本編にレッツゴー……」

みんな「細かくね――――――――――――」

5話 トレールモンを追え

トレールモンのモールは、ターミナルを猛スピードで駆けていった

「――」

たくやーな・なんだ!?

「ハーモニカの音が聞こえた。今のはトレー川モンのモード?」

じゆんペーす」レスビートたなー

ヒカリ一見えた?』

サヨーええ、モールの額に鋼の騎士のマークがあつたわ」

みんな（すんけー動体視力だな、おい）

たくや一闇の次は鐔かよ」

「おおきー」ということは、モードも操作されてるのかな?」「

「だらうな」

ヒカリ「追うわよ」

みんな
「はい？」

サヨ「だから追うんだってば」

みんな「ええええええ

ともき「あんな猛スピードのトレールモンを

じゅんpei「どうやって追うんだよー?」

ヒカリ「進化して・・・」

こうじ「たとえ進化してもヒューマンじゃ到底追いつけないぞ

サヨ「私達が進化すればいいことじゃない」

こういち「俺達六人も乗せれるのか?」

サヨ・ヒカリ「もちろんー!」

みんな(え、ええええええ)

サヨ・ヒカリ『スピリットエボリューション』

サヨ『ムーンビットモン』

ヒカリ『フライモン』

ムーン・フライ「わあ、乗ってー!」

そういうと、ムーンビットモンに乗ったのが輝一、拓也、友樹
フライモンに乗ったのが輝一、純平、泉だった

ムーンビデオ「ニベカム」

フランモン「しつかりつかまつてて！！」

二人はそういうと、生えている羽で飛び、猛スピードでモールを追いかけた

たくや「す、すつげーせえー」

じあんぺいへ難つてると叫んでや! いつで——..」

ムーンのビモン「モールが見えてきたわよ（呆）」

じゅんペー(「ハ、マーンハヅモノ」)も呆れられた・・・)

フラワーモン「つづけむわよーー。」

「アーネスト・チャーチ」

フラワー モン『フラワー ダッシュ』

ムーンラビモン『ムーンダッシュ』

二人は降りおもいつきりダッシュした
そしてモールの中にはいった

5話 テーラルモンを追え（後書き）

みづ「さあ、中に入ったみんなの運命やいかに」
たくや「血い事ごまかしただろ（呆）」
みづ「ああ、拓也まで呆れるのー」
たくや「だつていつもより更新するの遅かつたし、それにお前もつ
寝る時間だろ？」
みづ「く、悔しいけど正解・・・」
みんな（呆）
みづ「みんなまでー（泣）」
たくや「作者がいじけてしまつたので今回は俺達だけで次回予告で
す」
いずみ「今度はモールの中に謎のデジモンがー？」
たくや「なんだって！？」
こうじ「どんなデジモンがいるんだ？」
ヒカリ「それは次回のお楽しみ」
ともき「あと、お知らせです、僕達の名前が漢字になるんだって」
泉「たとえばこんな感じ」
純平「どうやら作者が面倒になつたみたいだな」
みづ「失敬な！ただ読者がいい加減君達の漢字を覚えた頃かもつて
思つたからだよ！！」
みんな（作者も意外と考えてるんだな）
みんな「次回もお楽しみにー」

6話 寄生型デジモン！？（前書き）

みづ「今日は、寄生型デジモンが登場するよ」

拓也「寄生型デジモン！？」

みづ「ヒントは劇場版デジモンティマーズ暴走デジモン特急にてで
くるよ」

輝一「つていうか、この小説にもティマーズが出てくるんだからや
れいっちやダメだと思つ」

みづ「大丈夫、大丈夫、本編でそれ言わなきゃモーマンタイ」

輝一「モーマンタイつてテリアモンかよ・・・」

みづ「ということで本編スタート」

みんな（この作者で本当に大丈夫かな？）

6話 動物園トジモンー?

みんな「……」

泉「どうして、こんなにトジモンがいるのよー？」

輝一「モールと同様、鋼の闘士のマークがあるな・・・」

友樹「でも、闇の闘士のマークは光っていたけど」

拓也「鋼の闘士のマークは、あんまし光らないんだな」

ムーンビッグトモン『ムーンビッグトモンスライドボリューション、ムーンラビモン』

フックワーモン『フックワーモンスライドボリューション、ライナモン』

ムーンラビモン『つまつらひこうじ』

ムーンビッグトシゴー^{アメ}『トジモン達には戻たりず、代わりにな

にかにあたつた

?・?・?「キシャヤ——————」

輝一「あれは」

輝一は、謎のデジモンのデータを調べた

デジヴァイス「パラサイモン、究極体、寄生型デジモン、ウイルス種
必殺技はエレクトリックバインド
究極体でありながらだれかに寄生しないと生きていけない」

友樹「みてーー！」

パラサイモンの額には光る鋼の騎士のマークがあり、そして寄生されていたデジモンのマークが消えていった

ライナモン「あのマークがついてるパラサイモンが寄生されていたから寄生されたデジモンも影響を受けて額に鋼のマークが付いたのね」

ムーンラビモン「でも、偽者のマークだったからマークも光らなかつた」

輝一「まさかモールもー？」

ムーンラビモン「そのまさかよ

ライナモン「・・・パラサイモンは、遠慮なく倒していくといわよ

みんな「ーー？」

ムーンラビモン「パラサイモンは寄生しないところでいいな、ほつとけばまた寄生してほかのデジモン達を苦しめることになる」

キヤツーがデジヴァイスから話しかける

キヤツー「今、パラサイモンを退化させる研究は、もう少しで出来上がるはずにや」

ライナモン「倒すのがいやなら、寄生されないようこう捕獲してね」

拓也「わーったわーった」

みんな『スピリットエボリューション』

拓也『アグニモン』

輝一『ヴォルフモン』

泉『フェアリモン』

純平『ブリッツモン』

友樹『チャックモン』

輝一『レーベモン』

アグニモン「いくぜ」

アグニモン『バーニングサラマンダー』

パラサイモン「さあ-----」

アグニモン「捕獲!!」

アグニモンは、渡された対バラサイモン用のケースで捕獲された

ヴォルフモン『リヒト・クーゲル』

バラサイモン「うあああああああ

ヴォルフモン「やらよ

フェアリモン『フレッザ・ペタロ』

バラサイモン「しゃああああああ

フェアリモン「えつ？ もやああああああああ

ブリッツモン『フェアリモーン』

ブリッツモン『トールハンマー』

バラサイモン「ぎやあああああああ

ブリッツモン「捕獲」

チャックモン『カチカチゴッチン』

バラサイモン「ひいいいいいい

チャックモン「楽勝」

レーベモン『ヒーヴィッシュ・シュラーフ』

パラサイモン「うああああああああああああ

レーベモン「捕獲」

ムーンラビモン『ムーンラビットシユート』

パラサイモン「ぎしゃ――――――――――

ムーンラビモン「つまんない」

ライナモン『フリワースード』

パラサイモン「ひいいいいいいいい

ライナモン「これで残るはモールを操ってる奴だけよ

ライナモン達は操縦室へ向かつた

ムーンラビモン「いた!!」

アグニモン「でつけ――

そこには巨大なパラサイモンがいた

ライナモン「いくら弱いといつても油断したらやられぬわよ――」

アグニモン「よし――いくぞ――」

チャックモン「僕が一番――」

チャックモン『スノーボンバー』

バラサイモン「?なんかやつたか?」

チャックモン「そ、そんな!..」

バラサイモン『エレクトリックバインド』

チャックモン「うわあああああああ

みんな「チャックモン!..」

ヴォルフモン「こいつ、今までのよりもかなり強い」

ムーンラビモン「くつ」

ライナモン「諦めちゃだめ、みんなで力を合わせればきっと勝てるよつ」

アグニモン「ライナモンの言つとおりだ!みんなで力を合わせよう!..」

ヴォルフモン「ああ」

フェアリモン「そのとおりね」

ブリックモン「一人一人の力は小さくとも」

チャックモン「みんなで力をあわせれば」

レーベモン「どんな強敵だつて」

ムーンラビモン「負けないよね」

アグニモン「いくぞ!...」

みんな「おう!...」

アグニモン『バーニングサラマンダー』

ヴォルフモン『ソーラービーム』

フュアリモン『フレッザ・ペタロ』

ブリッジモン『ハピルールサンダー』

チャックモン『スノーボンバー』

レーベモン『ヒントリヒ・メテオール』

ムーンラビモン『ムーンバズーカ』

ライナモン『フラワー キャノン』

みんなの技が合体した

パラサイモン「なにー!~やああああああああああああ」

パラサイモンはもうこうと体が黒くなり、デジコードが浮かび上が

つた

ライナモン「闇に染まつた魂よ、この、癒しの花の力で浄化する、
デジコードスキヤン」

スキヤンされたパラサイモンはデジタマになり、はじまりの町へと
飛んでいった

ライナモン「これで一件落着ね」

そういうて進化をといた

モール「いやー俺を助けてくれてありがとな、ややつお前らは」の
デジタルワールドを救ってくれたといつ伝説の十騎士じゃないのか
！？」

拓也「まあ、そんなどころかな

モール「オラを助けてくれたし、特別にただにしてやる」

純平「本当か！？」

泉「グラッチュ（ありがと）」

サヨ「じゃあ早速出発しましょ」

ヒカリ「なにこいつてゐの、じぱりは出発できないわよ

みんな「え？」

ヒカリ「まずは退化マシーンを造らないと」

ヒカリの後にはたくさんのパラサイモンがいた

輝「あ……」

拓也「忘れてた……」

ヒカリ「と、いわけでもモールも忙しげだらうからいつでいいわよ」

モール「そうか? んじゃあまた会おうなー」

みんな「そんな――――」

6話 寄生型アジモンー? (後書き)

みづ「ねえ、ウォルフモンの新必殺技どうだった?」

輝一「結構強力な技だと思うけど」

拓也「でも若干ガルムモンと技がかぶつてるような」

みづ「だってみんなと合体させられる遠距離技が、ガルムモンにはあつてもウォルフモンはないんだもん」

みんな「まあ、確かに・・・」

輝一「まあ、遠距離技が地味つていうのは認める」

みんな（認めるんだ・・・）

みづ「まあ、名前は、別のアニメとかぶつてるけどね」

拓也「どうせほかに名前思いつかなかつただけだろ?」

みづ「・・・悔しいけど正解(泣)」

拓也「またまた作者がいじけちゃつたので今回も俺達だけで次回予告をしちゃいます」

泉「次回はヒカリが退化マシーンを造る話しみたいよ

純平「まあ、がんばれ」

ヒカリ「なにいつてるの? あなた達にも手伝つてもらひのよ?」

みんな「ええええええええええ」

みんな「次回もお楽しみに」

みづ（あれ、前回もこのパターンじゃなかつたつけ?まさか!...）

7話 退化マシーン&人間デジモンマシーン（前書き）

拓也「おいおい、退化マシーンは分かるけどなんだよ、人間デジモンマシーン

ンマシーンって」

みづ「見てからのお楽しみ」

輝一「なんかいやな予感がするのは俺だけか？」

みづ「さあ？なんのこと？」

みんな（なんかたくさんでるな）

みんな「本編スタート」

7話 退化マシーン&人間「ジモンマシーン

ヒカリ「とりあえず部品集めとりますか」

サヨ「だつたらさつきのモールに乗せてつもらえばよかつたのに」

ヒカリ「なにこいつてるの?」こんなにたくさんのバラサイモンを乗せたら迷惑でしょう?それにこんなにたくさんバラサイモンを連れて行くわけにもいかないからサヨはかなうとして、あと一人連れて行くわ」

サヨ「公平にくじ引きがいいんじゃない?」

ヒカリ「やうね、「くじ引きマシーン」いつやつてもめんどいのがおきたときに使うの」

輝一「どうから出した?」

ヒカリ「私の造った四次元ポケットから」

サヨ「当りが一枚入ってるからはずれたらいじに残つてね」

いひじてみんながくじを引いた

拓也「はずれだ」

輝一「・・・当り」

泉「はずれだわ」

純平「俺もはずれだ」

友樹「僕も」

輝一「当りだ」

ヒカリ「これで決まつたわね」

サヨ「くじ運も似てるとはね、さすが双子」

輝一・輝二「お前らも双子だろ！」

ヒカリ「じゃあ、さっそくしうつぱーつ」

拓也・泉・純平・友樹 いってらっしゃい

輝一 で、なんで俺達まで行かなければいけないんだ?」

「サヨ、それは、あなた達のデジヴァイスにはフロンティアエリアの地図が自動保存になつてゐるから

輝一「ふん」

ヒカリ「ちょっととかして地図の出し方教えてあげるから」

輝一「あ、ああ」

ヒカリ「ここをいつやつて」

輝一（か、顔が近いって）

ヒカリ「分かつた？」

輝一「う、うん」

サヨ（ふーん）

輝一「ここから近いのは・・秋葉マークケットかな」

輝一「ビーツで寒いはずだ」

ヒカリ「寒いのと関係あるの？」

輝一「秋葉マークケットは、氷の町なんだ」

輝一「とにかくでもマークケットの方は巨大なだるまストーブで雪をとかしてあるけどな」

輝一「友樹が始めてビーストスピリットを手に入れた場所もあるんだ」

輝一「機械の部品を手に入れるならナノモンのところにいけばいいんじやないか？」

ヒカリ「ナノモン？」

輝一「友樹にビーストスピリットをくれた変わり者だよ」

？？？「だれが変わり者だ！？」

みんな「うわあ」「

輝一「ナ、ナノモン」

輝一「一体どうしたんだ?」

ナノモン「ちよこと修理の依頼があつてのー」

サヨ「ふーん」

ナノモン「それでうつかりトレーラーモンに乗り遅れてしまつてな」

輝一「俺達もちよつビナノモンに用があつたんだ」

ナノモン「じゃあ秋葉マーケットについてから聞くよ」

～秋葉マーケット～

ヒカリ「せつむー」

輝一「そんなに寒い?」

サヨ「ヒカリは寒がりだからね」

ヒカリ「だつてサンシャインシティは、一年中暖かいんだもん

サヨ「だもんつてあんたは子供か、まったく、中一のくせに子供っぽいんだから」

輝一・輝二「年上?」

ヒカリ「なによー、その上私たちの年までぱりじけやつてー」「

輝一「ま、まさか年上だったとは」

輝二「しかも純平よりも年上だとはな」

ヒカリ「これだから年下に年を教えるのがいやなのよ」

サヨ「あたし達のことは普通でいいからね?」

輝二「ま、最初からそのつもりだけどな」

サヨ「だからいつたじやない」

ヒカリ「・・・」

サヨ「ごめんね、ヒカリ昔ナイトクロウの人間にいじめられてたら
しくて人間不信氣味で・・・」(ひそひそ)

輝一・輝二「へえー」

輝一「意外だな」(ひそひそ)

輝二「フレンドリーに見えるの?」(ひそひそ)

サヨ「デジモンに対してもフレンドリーなんだけどねー」(ひそひそ)
(そ)

ナノモン「あのーそろそろ帰りたいんじゃが」

みんな（あ、忘れてた）

ヒカリ「あー、そうだったわね」

ナノモン「つたぐ、じつちじや」

～ナノモンの家～

ヒカリ「いろいろな部品があるのね」

ナノモン「といひで交換するものは持つてきたのか？」

ヒカリ「ああ、これとこれとこれを、これとこれとこれと交換して

サヨ「こんなにこりくなつた部品があつたんだ・・・」

ヒカリ「ま、こんな変わり者がいてもおかしくないからね」

ナノモン「変わり者とはなんじやーーー」

輝「まあまあ」

ヒカリ「じゃ、そろそろじいひ」

輝「なんか腹減つたな」

サヨ「大丈夫、いろいろな木の実持つてきてるから」

ヒカリ「帰つたらみんなで食べましょ」

そして、みんなの所に戻つた

拓也「腹減つたー」

ヒカリ「じゃあさっそく、木の実を食べましょ」

輝二「しかしこいつぱいあるな」

純平「これ食べよ」

サヨ「あ、それは・・・」

純平「にっがーーー」

サヨ「それは肉リングだから焼かないと食べられないってことおうとしたのに」

ヒカリ「まったく、こっちは焼かないと食べられないやつ、こっちは焼かなくても食べられるやつ」

ヒカリ「私は、退化マシーンを造るわね、そろそろこらだつてきてるから」

パラサイモン「キシャー—————」

そしてしまいくじて

ヒカリ「出来たー」

拓也「どれどれ？」

輝一「なんか……」

友樹「ライトみたいな形だね」

ヒカリ「名づけて、退化ライト」

ヒカリ「じゃ、さっそく実験とこきまつか」（にやり）

みんな（こ、こえー）

バラサイモン（ぶるぶる）

サヨ「ヒカリは実験になると人が変わるから、その代わりどの実験も一発で成功するから安心だけどね」

ヒカリ「じゃあ、バラサイモンちゃん、動かないでね」

ピカ一

そしてバラサイモンはみるみる退化してしまって幼年期のミノモンになつた

ヒカリ「やつた、成功よーー！」

みんな「おお」

ヒカリ「そうだ」

みんな「？」

ヒカリ「みんなにも実験手伝ってほしいんだけど」

みんな「え・・・」

ヒカリ「名づけて『デジモン化ライト』」

ヒカリ「いくわよ」

みんな「ちょ、まつ」

ボタンを押したとたん

ミノモン「ミノーノーノー」

ミノモンが体当たりしてきました

ヒカリ「えっ！？」

そしてライトの光がみんなにあたってしまった

みんな「うわ！」

7話 退化マシーン&人間デジモンマシーン（後書き）

みづ「はたして、拓也達はどんなデジモンになってしまったのか」「拓也」「つたく、いやな予感つてたいてい当たるんだよな」

みづ「ちなみにこの話はこの小説が始まる前から考えてたんだよね」「友樹」「でも、僕達がどんなデジモンになつたかちょっと楽しみだつたりして」「みんな」「次回もお楽しみにー」

8話 デジモンの知識（前書き）

拓也「なんだ？ 確か俺達デジモンになつたんだよな？」
みづ「デジモンになつたからこそデジモンの知識を身に付けなきゃ
いけないでしょ」

ヒカリ「全部とはいわないけどせめて神様に仕えるデジモン達などを
覚えなさい」

拓也「デジモンになつてまで勉強かよ」

サヨ「わがまま言わない」

拓也「へーい」

みづ「というわけで本編スタート」

8話 デジモンの知識

ピカ一

みんな「うわあああああああ

光が当たつたとたんみんなの体がみるみる小さくなつて、幼年期デジモンになつたではありませんか

?????1「う、うーん、あれ?いつもよりものがでかく見える」

?????2「気が付いたか?拓也」

拓也「そのバンダナ、輝一か?」

輝一「ああ

?????1「みんなデジモンの幼年期?になつてしまつたよ?」

輝一「その帽子、サヨ!...」

拓也「ほかのみんなも気が付いたみたいだぜ」

ヒカリ「自分の種類は、自分のデジヴァイスで確認してね」

炎デジヴァイス「ジャリモン 幼年期? スライム型

必殺技は、熱気を帶びた泡

個体数が少なく非常に希少なデジモン

光デジヴァイス「ゼリモン 幼年期？ スライム型
必殺技は、酸の泡

一つのデジタマから一匹が生まれる非常に希少なデジモン

風デジヴァイス「ニヨキモン 幼年期？ 種子型
必殺技は、シードクラッカー

体の表面を透明な体組織に覆われた種子型デジモン

雷デジヴァイス「ユキミボタモン 幼年期？ スライム型
必殺技は、酸性の泡

尻尾部に新緑の息吹をもつたスライム型デジモン

氷デジヴァイス「ココモン 幼年期？ スライム型

必殺技は、ダイアモンドダスト

全身を白くてフワフワしている産毛に覆われてるベビーデジモン

闇デジヴァイス「ココモン 幼年期？ スライム型

必殺技は、酸の泡

一つのデジタマから一匹が生まれる非常に希少なデジモン

月デジヴァイス「レレモン 幼年期？ スライム型

必殺技は、変身

月夜の晩にしか生まれないと言われる神秘的なデジモン

花デジヴァイス「ピチモン 幼年期？ スライム型

必殺技は、シャボンの泡

以前からデジタルワールド内の生命誕生の場として研究されてきた

拓也「しかし、デジモンにも双子とかつているんだな」

ヒカリ「それだけじゃないのよ、この一匹はアメリカのデータから生まれたのよ」

みんな「へえー」

サヨ「でも、拓也も結構いいデジモンになつたじゃないの」

拓也「へ？」

ヒカリ「ウィルス種だけど、究極体になつたら名前あるロイヤルナイツのデュークモンになれるんだもん」

みんな「ロイヤルナイツ！？」

サヨ「あ、でもでも」

ヒカリ「あなた達が戦つたロイヤルナイツは裏切り者だから」

サヨ「ふだんのロイヤルナイツは神に仕えるデジモン達だから」

みんな「へえー」

ヒカリ「ちなみにロイヤルナイツは」

サヨ「優れたるテーラルバランスを誇る「最後」の聖騎士オメガモン」

ヒカリ「四大竜の異端児より目覚めし紅き聖騎士デュークモン」

サヨ「ロイヤルナイツ守りの要 奇跡の輝きを放つ聖騎士マグナモ

ン

ヒカリ「全ナイトモンを纏める無慈悲な聖騎士ロードナイトモン」
サヨ「武士道・騎士道精神を強く重んずる飛竜を宿した聖騎士アルフォ
ナスモン」

ヒカリ「古の力を解放し「未来」の力を宿した蒼き聖騎士アルフォ
ースブイドラモン」

サヨ「不敗の魔槍で全てを裂く暗澹な聖騎士クレニアムモン」

ヒカリ「そして、空白の席の主として聖騎士達を制する「最初」の
聖騎士アルファモン」

みんな「へえー」

友樹「あの、さつきいつた四大竜ってなんですか?」

ヒカリ「いい質問ね」

サヨ「四聖獣の1体にも数えられる東方を守護する聖竜チノロンモ
ン」

ヒカリ「神の啓示を告げ神獣系の頂点に位置する聖竜ホーリードラ
モン」

サヨ「再生と破壊を司る小竜を両腕に宿した四大竜最高の魔力を持
つ聖竜ゴジードラモン」

ヒカリ「そして、強大な力を持つが故に管理システムによって封印されたデジタルハザードの邪竜メギドラモン」

サヨ「拓やは一步間違えばこのメギドラモンになっちゃうって」と
ね

輝一「四聖獸って？」

ヒカリ「四聖獸つてこいつのは、神に近い存在よ一言でいえば京都ね」

サヨ「北方を守護するは水の力を操る玄武シショウモン」

ヒカリ「東方を守護するは炎の力を操る朱雀スーシューモン」

サヨ「南方を守護するは雷の力を操る青龍チンロンモン」

ヒカリ「そして、西方を守護するは鋼の力を操る白虎「バイフーモン」

サヨ「そして、その「四聖獸」達をまとめるのが皇帝・黄龍ファンロンモン」

みんな「へえー」

純平「どうでもいいけど俺達どうやってもとに戻ればいいんだ？」

みんな（どうでもよくねえ）

ヒカリ「じつは・・・」

みんな（まさか）

ヒカリ「成長期になんないと元にもどれないんだよねー」

みんな「戻れるんかい！！！」

サヨ「ヒカリがそんなけつかん品を造ると思ってるわけ？」

純平「だつて、まだ出会って日も浅いし・・・」

ヒカリ「えー、信用してなかつたのー」

輝二（人間不信気味の人間に言われたつて説得力ないつて）

輝一「でも、幼年期？の俺達が、そんな簡単に成長期にはなれないんじやないのか？」

みんな「・・・確かに」

サヨ「デジモンの世界は恐竜時代みたいに弱肉強食の世界、生まれてすぐに死んでしまう『デジモンも多くないわ』

拓也「こうなつたら」

みんな「こうなつたら？」

拓也「特訓だー」

輝一「ま、それが一番手っ取り早いだろうな」

拓也「よーし、がんばるぞーー！」

みんな「えいえいおーーーー！」

サヨ「あのー、盛り上がってるといい申し訳ないんだけど、もう夜遅いし、特訓は明日にしない?」

ナミの話ひとつもう辺りは暗くなっていた

純平「とにかくおえす寝ねむ」探すか・・・」「

みんな
賛成・
・
・
・

一気に盛り下がった・・・

8話 テジモンの知識（後書き）

拓也「なんかいやな終わり方だな」

みづ「だつてー」

みづ「そんなことより次回のお話は

拓也「そんなことより！？」

みづ「次回は特訓開始！！」

拓也「どんな特訓だ？」

ヒカリ「そりゃあ幼年期の特訓といえば地味に特訓しかないでしょ

みづ「ということで」

みんな「次回もお楽しみにー」

9話 泉を守れ！－ジャリモン進化－！（前書き）

みづ「ついに特訓開始となりました」

泉「ジャリモンが進化したらどんなになるのかしら」

みづ・ヒカリ・サヨ「そりやあまだ幼年期だしね可愛いでしょ」

拓也「それって…褒めてんのか？それとも弱い思ってるのか？」

みづ「まあ」

ヒカリ「幼年期といつても」

サヨ「竜種族の幼年期だから弱いっちゃんあ弱いけど」

ヒカリ「幼年期の中では強いほうね」

みづ「というわけで」

みんな「本編スタート」

9話 泉を守れ！！ジャリモン進化！！

次の日

ナニヤウノ

輝一「意外と早起きだな」

ヒカリ「意外は余計よ」

泉・友樹・輝
——ふあああ、おはよう

ヒカリーん？」

ヒカリが見た先には、言いだしつペの拓也と純平が寝ていた

輝一「ついでに純平も・・・」

サヨ「やばつ・・・はいつこれあげる」

サヨがみんなに渡したのは耳栓だった

みんな「耳栓？」

とたんに笛の音が鳴り響いた

みんな「うるさいあああああああああああああああい」

サヨ「早く使えばよかつたのに・・・」

拓也「み、耳が・・・」

純平・痛い・・・

ヒカリ「言いだしつペのあんたが寝てるから悪い」

「あんたたちがいっつまでも寝てるから」「までも」とほいちらじゅ

輝一「いつもこうなのかな？」

「うん・・・だからねべへ一回で起れな^ルいの・・・

友樹「サヨさんも大変ですね・・・」

サヨ「ヒカリ、もうそれくらいにしておいてあげたら？」

ヒカリ「そうね、じゃあ特訓開始よー。」

みんな「ねい... ...」

拓也（俺のポジション取られた）

そして特訓は開始とされた

ヒカリ「とりあえず観察力の特訓よ……」

サヨ『変身』

ヒカリ「このようにサヨはこうやって隠れるから見つけたら技を出して見つけっていうね」

サヨ「じゃあ田をつぶって」

サヨ『変身』(ぼそ)

サヨ「もひいわよー」

純平「俺が先に見つけるぞーー」

みんながちらばっていった

ヒカリ「まるで幼稚園児ね……」

輝二「まったくだ・・・」

ヒカリ「あれ? 輝二は行かないの?」

輝二「ああ、観察力でありますにかなう奴はないからな

ヒカリ「あいつ?」

輝一「ま、見てれば分かるわ」

その辺の輝一は

輝一「ん?なんかこの木、不自然だ・・・」

ジ-----

輝一は木の後ろ側に回り込んだ

輝一「あ、尻尾」

輝一『酸の泡』

輝一「みつけ」

サヨ「かくれんぼ終了」

そしてみんなが戻ってきて

拓也「そういうや輝一ってめちゃくちゃ観察力がいい」と忘れてた

輝一「まあな」

ヒカリ「次は必殺技の練習よ」

サヨ「これはタッグを組んで決めます」

ヒカリ「くじ引きマシーン」で同じ色だった人がペアよ

みんながくじを引き終わつた

輝一「青だ」

ヒカリ「私も青ね」

ヒカリ・輝一 よろしく

卷一百一十一

十三
和毛
白

十三 お手柔らかにね

卷二

十七
傳記

易經

純平 - 僕は黄色

友樹一 僕もだよ

拓也・泉・純平・友樹「なんか、あんまり変わらないような・・・」

ヒカリ「じゃあ特訓開始！！」

みんな「ねいーーー！」

ヒカリ・輝一ペア

ヒカリ「とつあえずお互いの技をぶつけてみましょ」

輝一「分かった」

ヒカリ『シャボンの泡』

輝一『酸の泡』

酸の泡がシャボンの泡の中に入ってしまった

ヒカリ「もうちょっと勢いよくできない?」一つの泡が割れるくらいの勢いよ」

輝一「うん、分かった」

サヨ・輝一ペア

サヨ「もう一回かくれんぼよ」

輝一「えつーでも観察力の特訓は終わったんじや?」

サヨ「……レモンは変身しか出来ないのよ」

輝一「……」

サヨ「私に攻撃していいから」

輝一「……分かった」

サヨ『変身』

サヨ「やあ、『ジ』からでもかかつてきていいいわよ」

輝一（狐が狐に変身したよ）

輝一『酸の泡』

れい

簡単に避けられてしまった

サヨ「もつりなつとすばやく動けない？ そんなんじやあたるものもあたらないわよ」

輝一「やつてやつてじやないか」

輝一は珍しく挑発に乗ってしまった

純平・友樹ペア

純平「んーとりあえず技をぶつけるか？」

友樹「やつですね」

純平『酸性の泡』

友樹『ダイアモンドダスト』

二二
「あ」

純平「氷つちやつた」

友樹「もう一回ですね」

拓也・泉ペア

拓也「うーん、俺達はとりあえずどんな特訓をしなう?」

宗「私たちに命中力の特訓しましょ」

卷之三

是
例
文
に

そういうと泉は木の棒を捨ててそこら辺の岩に目的を書いた

泉シートケラッカー

卷之二

二十一

ゴツモン「なにすんだ——」

泉「ご、ごめんなさい」

拓也「！泉あれをみる！…」

泉「…？」

『ゴッモンの額には鐗のマークがあった

拓也「案の定居眠りしてたらまたま泉に岩と間違えられたんだろうな」

泉「そんな！…」

炎デジヴァイス「ゴッモン 成長期 鉱石型 データ種
必殺技はアングリー・ロック
フィールド中の鉱石データをまとい、強力な防御力を持つ鉱石型の
デジモン。」

泉「でも、あのゴッモン見たことない？」

拓也「輝二」と仲良かつたゴッモンに似てるな

『ゴッモン』アングリー・ロック

泉「きや——————」

拓也「泉！…くつ」

泉「拓也！…？」

拓也が泉を庇つた

輝一「ビウした！？」

輝一達が泉の悲鳴を聞きつけたのかその場にやつてきた

輝一「へへっ」「ツツモンーーー！」

拓也「くわッ」（俺は泉を守りたい、守りたいんだーーー）

その時！拓也が金色の光に包まれた

拓也『ジャリモン進化ー』

拓也『ギギモン』

光デジヴァイス「ギギモン 幼年期？ レッサー型
必殺技はホットバイク

ジャリモンが成長した四足型の幼年期デジモン。身体的特徴はトコ
モンに酷似しており、口の中にも強力な牙が生え揃っている。』

拓也『ホットバイク』

ゴシモン「ぐるあ」

拓也「そりよーと」

拓やはゴシモンに強力な頭突きを食らわした

そして鋼の騎士のマークは壊れた

拓也「こいつひつひ

ヒカリ「セリヤあ痛いでしょ?」

サヨ「なんせ成長期なつえに鉱石型デジモンなんだもんね」

ゴジモン「あれ?おいらはどうしてたんだ?」

輝一「大丈夫か?」

ゴジモン「そのバンダナ!...輝一、輝一なのか」

輝一「まあ、わけあってこんな姿だけだ」

「ゴジモン」「こんなに可愛い姿になつて輝一!うしぐねえ」

みんな「まあ、確かに」

輝一「うぬわー...」

ゴジモン「輝一が助けてくれたのか?」

輝一「ちが」

拓也「やつやつ...そつなんだよ」

輝一が否認しようとしたらそれを拓也が制した

ゴジモン「やつかーありがと!」

輝一「こや、まあ、その」

泉「いことあるじやない」（ひそひそ）

拓也「うるせー」

そうじゅう拓也は顔が赤かった（ギギモンだから分からぬけど衆には分かった）

ヒカリ「じゃあ今日の特訓はこれまでにしてしましょ」

「ゴジモン「お礼もしたいし今夜はおいら達の住処に来ないか？」

みんな「いいじゃーーー！」

「ゴジモン「なんだこんなことになつたか話してくれないか？」

ヒカリ「まあ、いいんじやない？」

みんなは「これまでの」と話をした

「ゴジモン友「そんなことだが・・・おいら達も協力するぜーーー！」

「ゴジモンA「ま、僕たちの世界も救つてくれたし」

「ゴジモンB「恩返しもしなきやね」

「ゴジモンC「元に戻れるまでここにいていいからね」

みんな「ありがと」

「アシモロ」おれを助けてくれるやつだね

「ゴジモン」「だって一度なった一度までも僕たちの世界を救おうとしてくれてるんだもん」

「ゴジモン」「これくらいこなは当然だよ」

「ゴジモン長老」「アリス」「アリス、おひへつしてくだされ

みんな「はー」

9話 泉を守れ！－ジャリモン進化！－（後書き）

みづ「ついに拓也が進化！－！」

拓也「やつたぜー！」

輝二「つていうか

輝一「これまでのことを話す場面が

純平「手抜き・・・」

みづ「そんなことより次回のお話は

みづ「輝一が進化！－！」

友樹「輝一さんが進化するとどんなデジモンになるんだろう？」

ヒカリ「可愛いわよ

サヨ「可愛いよね

ヒカリ「ま、正直ロップモンのほうが好きだけだね

サヨ「あら、テリアモンの方が可愛いわよ」

ヒカリ「ロップモンよ！－！」

サヨ「テリアモン！－！」

ヒカリ「ロップモン！－！」

みづ「えー二人が姉妹喧嘩を始めたので次回予告を終了します

ヒカリ・サヨ以外「次回もお楽しみに」

ヒカリ「ロップモン！－！」

サヨ「テリアモン！－！」

さよ・ヒカリ以外「ヒートアップしてる・・・（呆）」

10話 輝一の幼馴染！？（前書き）

拓也「幼馴染！？」

みづ「そうだよ」

拓也「また新しい仲間が増えるのか？」

みづ「そうとは限らないよ」

みんな「えっ！？」

みづ「本編スタート」

10話 輝一の幼馴染！？

「ゴジモン友」「オイラは輝一達の手伝うるよ」

「ゴジモン長老」「幼年期なんじゃからインセキモンは禁止じゃ」

「ゴジモン友」「わーつるつて」

「輝一」「ゴジモン、よろしくな」

「ゴジモン」「ああ」

用デジヴァイス「インセキモン 完全体 鉱石型 データ種
必殺技は、「ズモフラッシュ」など
体に隕石のデータを纏ったゴジモンの亞種。」

サヨ「昨日と同じペア+ゴジモンで特訓するか？」

ヒカリ「わうね、みんなは意義ある？」

みんな「意義なし」

サヨ「じゃあ、それぞれペアになつて散らばつて」

みんな「はーい」

ヒカリ「あ、そうだ、ギギ拓」

拓也「ギギ拓とか呼ぶな、それで何のようだ？」

ヒカリ「どうやつて進化できたの？」

拓也「分からないよ、泉を守りたって思つたらいつの間にか進化してたんだ」

ヒカリ「分かった、もうこつていいよギギ拓」

ギギ拓（つゝ、番外編でやつた白雪姫の天然さが移つてゐる、しかも書かれてるし）

ピチヒカ「はーいそ」、本編に関係ない」と思つちやだめよ「

一四キいす「ほらーいくわよ」

ノノ「ヒカリもいくぞ」

ヒ力・拓「はーい」

ギギ拓（つていうかみんなも書かれてる）

純平・友樹+ゴジモンABチーム

リフ純「俺達は今日はどんな特訓する?」

ユキ友「そうですねー」

ゴジモンB「すばやきの特訓してみたら?」

ゴジモンB「俺達が攻撃するから当たんなによつよけて

純・友「えつちよつ待つて」

ゴッモンAB「問答無用」

『ゴジモンAB『アングルヒーロック』

純・友「わ

拓也・泉+ゴツモンCD

ギギ拓「俺達はどうある?」

「アキラ」

ゴツモンC 一体力を鍛えればいいんじゃないかな?」

ゴシモンD「ああ、それがいい、長期戦にはもつてこいの体力があればみんなをひっぱつていける」

「ジムは『アーティスト』だ――――――」

「問答無用」

『ゴジモンCD』『アングリー・ロジク』

拓・泉「うわああああああああああああああ」

輝一・ヒカリ+ゴツモン E F

「今日はどんな特訓なんだ？」

ピチヒカ「攻」

ゴッモンE「判断力です」

ビチヒカ「なに勝手に」

「ジモン田、判断力がなけれには勝てるものも勝てません」

ヒヂヒガ・それはそこだにど

「ジモン田中、どうして労働力の特許開始です」

コツモンEEF一問答無用です「」

ゴッモンEEF『アングリー・ロック』

輝
・ヒカリ
わあああああああああああああああああああああああ

輝一・サヨ+ゴツモン友・長老

ゴシヤン長老「すまんな、ほかのゴシヤンはほかのものの特徴を手
伝つてねつてわざと、いやつとかねりこの辺へ」

ゼリー「いいよ俺達につき合わせてしまったから」いちがもうしづか

けないくらいだよ

レレサヨ「そうね、あ、そうだ特訓のないようだけど防御力の特訓
よ

ゼリ一「防御力?」

レレサヨ「や、攻撃を食らって耐性をつけるの

ゼリ一「えつ・・・」

レレサヨ「私もやるから」

レレサヨ「長老セーん、『ゴジモーンお願いしまーす』

ゴジモン友「よしきた!!」

ゴジモン長老「わしも腕が鳴るのー」

ゴジモン友・長老『アングリーロック』

ゼリ一「うわああああああああああああああああああああああ

そして数十分後・・・

ゼリ一「いててててて

ゴジモン友「大丈夫か?一人とも」

レレサヨ「私は大丈夫・・・」つづつ

ゼコー「自分でつて痛いんじゃないか」

レンカラ「なによー私は」ねぐらこの傷くちぢりなんだから

ゼコー「ただのやせ我慢のくせに」

レンカラ「輝一|黙りもなこわよーー本当に昔から変わらないんだ
か」

ゼコー「昔からね前は・・・」

レンカラ「やつと隕付いた様ね、といつても隕付いてたみ
たいだけだね」

ゼコー「じやあやせじやせ前は・・・」

レンカラ「や、幼馴染の田野カラ」

ゼコー「おじかよ・・・」

レンカラ「なに、今のこやうな反應は
「まだ」

ゼコー「ふる」

レンカラ「むつかー——」

ゼコー「やこんなに暴れると傷口開くべや」

レンカラ「もうこればシモノは?」

ゼリニ「水汲んでくるつてや」

？？？『ホットカツレツ』

突如カツ爆弾が飛んできた

レレサヨ「あやあ！？」

ゼリニ「エビバーガモン！？」

光デジヴァイス「エビバーガモン 成長期 食物型 データ種
必殺技はホットカツレツ フレッシュユーシュリンプ
食べ物のデータを取り込んだデジモン」

エビバーガモン「ぐりゅりゅりゅりゅ」

レレサヨ「うう」

ゼリニ「サヨ、大丈夫か！？」

レレサヨ「う、うん、それより額」

ゼリニ「分かつて、こんな体で戦うのは無茶だけど俺はやる！！」

そう、エビバーガモンの額には土の闘士のマークがあつたのです

ゼリニ『酸の泡』

輝一は、技を放つたのはいいがエビバーガモンに弾かれてしまった

ゼリニ「くつ」

エビバー・ガモン『フレッシュ・シュウ・リンパ』

ゼリニ「うわ！」

ゼリニ（くつ俺には守れないのか？いや守ってみせる）

そう思ったとたん輝一の体が金色に光った

ゼリニ『ゼリモン進化！グミモン！』

ギギ拓「なにがあった！！」

ハハ「あれは・・・」

闇デジヴァイス「グミモン 幼年期？ レッサー型
必殺技はダブルボブル
ゼリモンが成長したデジモン。とても元気な性格はゼリモン譲りで、
明朗活発である」

グミニ『ダブルボブル』

泡がいっぱいですエビバー・ガモンの目に入った

エビバー・ガモン「ぐりやああああああああああ

リフ純「地味にいたそー」

グミー「どうやああああああああああああ」

輝一は、突進してきて額に頭突きをした

エビバーガモン「さやああああああああああああ」

ユキ友「すつ」といたそー」

エビバーガモンの額に角が刺さった

グミー「ふう、いててて」

レレサヨ「輝一無茶しすぎ」

ハハ「二人ともすごい傷だな」

レレサヨ「あんた達だって人のこと言えないと思つけど?」

ピチヒカ「あのゴジモンたちの強引さ半端ないからね」

ギギ拓「まったくだな」

エビバーガモン「あのー、もしかしてそれは私が付けた傷なんじゃないんでしょうか?」

サヨ・輝一「全然違うから気にするな(しないで)」

ゴジモン友「ほとんどのこら達がつけた傷だからな」

ゴジモン長老「やうじゅや、おぬしが気にする」とでもない

エビバー ガモン「ありがとうございました」

「ハヤシノ長老」「アーニーの件は少しだが、ナマリナヒを聞いた感じではじゅうが幼馴染とは本当か？」

レレサヨ「残念ながら本当です」

ケミーなんだよ、残念ながら」て

三三三・本日のことを記すが如き

タミー

卷之三

三
二
一
な

ビヂビガ
・
て
でせけんがくるほど何かいいとせ言ひに

ヰヰ招一そそニたな・・・」

輝一、サミ以外一あは、あはははは：・・・・「

一同は輝一ヒサツのキャラが変わったことに苦笑いを浮かべるんだ
つた

10話 輝一の幼馴染！？（後書き）

拓也「なんか、性格変わつてねーか？」
みづ「二人は初心に帰つたんじゃない？」

拓也「どんな初心の帰り方だよっ」

輝一「俺達はお互に喧嘩するとキャラが変わるんだよ
みんな「へえええ」

みづ「そんなことより次回のお話は」

みづ「次回は純平がなんと…！」

拓也「なんと？」

みづ「傷ついても立ち上がりります」

輝一「どんな話しだよ・・・」

みんな「次回もお楽しみにー」

11話 純平、友樹の危険な休日（前書き）

友樹「危険な休日？」

純平「いやな予感しかしないのは俺だけか？」

みづ「でもデジタルワールドに行つてから始めての休日じゃん」

拓也「それもそうだな」

友樹「納得しないでよ、拓也兄ちゃん・・・」

みづ「本編始まるよ」

純平「なんで機嫌がいいんだーーー！」

みんな（作者どうだー）

1-1話 純平、友樹の危険な休日

ピチヒカ「いきなりだけど今日は特訓休み」

グミー「本当にいきなりだな・・・」

リフ純「やつたー休みだー」

レレサヨ「でも、いろんなのんびりしていいのかシリ・・・」

ピチヒカ「今のところやつらの動きは私達を倒すことしか動きはないからね」

ハハ「まあ、今のところデジモン達を利用してるだけで別に殺そうとしているわけじゃないからな」

レレサヨ「だからその間に炎、光、風、雷、氷、闇のビーストスピリットをしていれたいんじゃない」

レレサヨ「そのためにも早く成長期になつて元に戻りたいのにそのままだなんて」

ピチヒカ「たまの休憩だって必要だし、それに特訓したって進化はできないわよ」

レレサヨ「その考えが・・・ん?今なんて言った?」

ピチヒカ「だから特訓したって進化はできないわよ」

ピチヒカ「昨日の夜中、調べたところ感情による進化の例が多いの」

「うーん、どうだ？」

ピチヒ力「例えば、守りたい気持ちや、勇気、友情などの感情や心の特性が進化となって現れてくるんじゃないかしら？」

ギギ拓「そういえば、スピリットも俺達の感情に反応して出てきた
よ」に感じた

ピチヒカ「そ、それはスピリットに関しても同じ、そして恨みや妬みなどの感情が暗黒進化となつて現れるの」

二二一「暗黑進化？」

ピチヒカ「そ、現に輝一君も暗黒進化してるでしょ？」

「ココー、・・・ダスクモンと、ベルグモン」

「確かにあのときの俺は不の感情があった」

ビチビカーでしょ？で、レーベモンになつた時の感情は？

みんなを、輝かせたりたいと思っていました

ピチヒカ「これでサヨも納得がいったと思つけど？」

レンサッパ「あ、やつがい」となり納得しそうな顔になっていたね、でも、

それは半信半疑だから完全に信用してないんだからね

ピチヒカ「お好きなよつこ・・・ふわあああ

△△「ずいぶんと眠れつだな」

レレサヨ「ヒカリは数日寝なくても平氣なの△△

ピチヒカ「研究が終わんないと寝られない性質なのよ」

レレサヨ「ま、ヒカリが眠いならもし敵が来ても作戦考えられないだろつし、しきうがないから休みにしてあげる」

ピチヒカ「あ、やうだペアの人と離れちゃだめだから、輝一君は別として」

みんな「はーー・・・・」

グミ「輝一はどうするんだ?」

△△「俺は見張りをしながら絵を描く」と△△するよ

レレサヨ「別に見張んなくても大丈夫だと思つんだけじなー・・・」

△△「最近絵を描いてないから今のつむに描きたいからさ」

グミ「ま、これから苦しい戦いになつていぐだらつし今のつむだらう?」

レレサヨ「ま、輝一君は自由だからこいんだけどね」

リフ純「俺達せびー」に行へべ。」

ユキ友「僕、湖がいー」

リフ純「やうだなほかに行へといひなこじいくか」

グミー「俺は初めてベースストスピリットと出会つたあの日に行きた
いねび」

レレサマ「こいわよ、行きましょ

一四キいす「私たちせびー」行く?」

ギギ拓「別に行くといひもないし輝」達こいつていくか

一四キいす「そうね

そして、純平達は田の湖についた

リフ純「結構いい場所だな

ユキ友「そうですね

リフ純「ゴッモン達もこから食べ物や水を補給してたんだな

ユキ友「こんなに平和だと本当に七大魔王が復活したのか分からな
いですね

?/?/? 「なら」の平和をぶち壊してやるつか?」

純・友「！？」

氷デジヴァイス「シャコモン 成長期 甲殻類型 ウイルス種
必殺技はブラックパール ウォータースクリュー
外皮を飛躍的に発達させたため、内部構造は幼年期のようなスライム状になっている」

リフ純「いくぞ！ 友樹」

ユキ友「はいっ！！」

リフ純『酸性の泡』

ユキ友『ダイアモンドダスト』

シャコモン「ふん」

シャコモンは殻を閉じて攻撃をしのいだ

リフ純「なに！？」

シャコモン「それでおわりか？ 今度はこっちの番だ」

シャコモン『ブラックパール』

純・友「うわっ」

リフ純「くつ」

シャコモン「ビリした？それで終わりか？あつけないものだな

リフ純「へつ、俺達はお前を倒す」

ユキ友「純平さん・・・はいっ」

そのとたん純平と友樹の体が金色に光った

リフ純「リーフモン進化！ミノモン！..」

ユキ「ユキミボタモン進化！ワニヤモン！..」

シャコモン「進化したか、だが幼年期は幼年期、このシャコモン様の敵じゃない！..」

ワニヤ友「幼年期だからって」

ミノ純「なめんなよ！..」

友樹はシャコモンに近づいた

シャコモン「ん？」

ワニヤ友『スマイルファング』

シャコモン「きやあ」

友樹はここここしながら噛み付いた

ワニヤ友「今です、純平さん！..」

ミノ純「ねうーー。」

ミノ純『パイン』

そして純平の技は額に当り、水の闘士のマークが壊れた

純・友「やつたー。」

ギギ拓「大丈夫かー。」

ミノ純「今更きてもおそいつーの。」

一ヨキイズ「純平と、友樹なの？」

炎デジヴァイス「ワニヤモン 幼年期？ レッサー型
必殺技はスマイルファング

イヌやネなどのペット系小動物のデータが融合している「デジモン」

光デジヴァイス「ミノモン 幼年期？ 幼虫型

必殺技はパインゴーン

硬い外郭の殻に入った、リーフモンの進化系デジモン

一ヨキイズ「あんた達ぼろぼろだけど大丈夫？」

ミノ純「ちょっと疲れたかな。」

ワニヤ友「僕も。」

ギギ拓「じゃあ、帰るか。」

帰り道

ギギ拓「純平？なにしてるんだ？」

ミノ純「なにしだつて、拓也にぶら下がつてゐただけだけど」

ミノ純「ZZZZ」

ギギ拓「寝るな————！！！」

チャンチャン

1-1話 純平、友樹の危険な休日（後書き）

拓也「つたぐ、なんで俺にぶら下がるんだよーーー！」

泉「まあまあ」

みづ「拓也の虫の匂所が悪いよつなので今回は拓也抜きの次回予告

です」

みづ「次回は楽しい楽しいハイキング」

泉「ハイキング・・・」

輝一「こんなにのんびりしていいのかな・・・」

みづ「がんばれ泉」

みんな「次回もお楽しみに」

12話 泉の危険なハイキング（前書き）

みづ「今日は一部分がベタな展開になつてきます」
拓也「ベタな部分つてやっぱあれか」
純平「ハイキングでベタな展開つてあれしかないもんな」
みづ「と、いうことで本編スタート」

12話 泉の危険なハイキング

みんな「えええええええハイキングウ！？」

ピチヒカ「そ、どんな感情だつてきつかけがなければでこないでしょ？」

レレサヨ「まあ、確かにそうだけど、でもただあんたが遊びたいだけなんじゃない？」

ピチヒカ「ひどいよ、私はただみんなの有利なフィールドを選んだ上での判断なのに・・・」

レレサヨ「え！？ そうなの」

グミー「確かに、ピチモン以外は有利なフィールドだよな」

レレサヨ「う、ごめん！ みんなのことをそんなに思つてるとは知らす！」

ハハ「とにかくあ、もう行く山は決まってるのか？」

ピチヒカ「ここから近いのはカラツキヌメモンの山かな？」

セヨ、ヒカリ、輝一以外「無理！？」

レレサヨ「なんで？」

ギギ拓「急な坂つて言つか

ミノ純「とにかく垂直」

ハハ「それじゃあ無理だな」

ピチヒカ「じゃあどうする?」

「ゴジモン」「よ、山を探してくるのか?」

グリ「ああ」

「ゴジモン」「それなら木の街にぴったりな山があるぜ」

ハハ「うるから近いのか?」

「ゴジモン」「ああ、東にずーっと進んだ方にあるぜ」

ギギ拓「教えてくれてサンキューな」

「ゴジモン」「でも気をつけろよな、あそこは天氣は恐ろしくへりこむ
変わりやすいからな」

レレサヨ「分かったわ」

ピチヒカ（天氣が変わりやすい?）

そして森林山に着いた（森林山とは山の名前）

「アキラ「ここが森林山?」

レレサユ「やうみたこ」

ギギ拓「じゃあさつをへ上がるか」

みんな「おお――――」

そうこうで登り始めたのはいいが

ギギ拓「霧が出てきたな・・・みんなはぐれるなよ――」

そしてしばらくたって霧が晴ってきた

ミノ純「霧が晴れてきたな」

ワニヤ友「つめたつ」

ギギ拓「今度は雨かな」

レレサユ「あれ? 泉は?」

みんな「! ?」

ミノ純「わづかえば・・・」

ギギ拓「いな・・・」

ピチヒカ「はぐれちゃったのね・・・」

そのじる泉は

ミサニ「どうも・・・みんなとはぐれちゃった」

雨の中みんなを探していた

「アキラ「みんなー」「

? ? ? 「どなたかお探しで？」

泉は声の主が木の闘士のマークを持つたアルマジモンだつたことに驚いた

風デジヴァイス「アルマジモン 成長期 哺乳類型 フリー
必殺技はスクラッチビート ローリングストーン
硬い甲殻で体を覆われた哺乳類型デジモン。のん気で愛嬌のある性格だが、お調子者なところがたまに傷である」「

アルマジモン「お前か？伝説の十闘士つついのは？」

「三キロ」「だったらどうするの?」

「お前には何の恨みもないが倒せてもいいださや」

その頃拓也達は

ギギ拓「おーい、泉ー」

グミー「どうこつたんだ?」

そのとたんみんなのデジウアイスが反応し、ビームを導いてくる

レンサ弔「いれは・・・」

ピチヒカ「まさか、これは泉のいる方向にいるんだ？」

ギギ拓「行つてみるぞーーー！」

泉に戻つて

『四キいす『シードクラッシュカー』

アルマジモン「きかんだぎやー今度はこの中の一番だぎやーーー！」

アルマジモン『スクラッシュビーート』

『四キいす「わやあ」

アルマジモン「ふん、しょせんは女、お前はただ守られてればいいんだぎや」

『四キいす「くつ」

『四キいす（私は守られてるだけじゃいや、私も戦つ、戦つのーーー）

そう思ったとき、泉の体が光つた、そして・・・

ギギ拓「泉つーーー！」

拓也達もその場に着いた

「『キニズ』『キモン進化』『モモン』…』

炎テジヴァイス「ピラゴモン 幼年期？ 球根型
必殺技はシャボンフラー」

頭に大きな花を咲かせた球根型のレッサー・デジモン。根のような触手を器用に動かすことで移動することができ、短い距離だがフワフワと空中に浮かび上がることができる

「エラゴニザ「や、こくわよーーー！」

ペラゴニズ『シャボンフラー』

泉は泡を吐いて油断していたアルマジモンはもろに倒たつた

アルマジモン「あれ、いこおこだぎや。。。」

ギギ拓「こまだ！！」

泉はそこから落ちていた木の棒でアルマジモンの額をつついた
「エラゴニズ「やったーーー！」

ミノ純「大丈夫？ 泉ちゃん」

ペラゴニズ「平気よ」

レレサリ「やあやあ降りる？」

ピチヒカ「そうね、これ以上くると危険だし、泉もぼろぼろだから

ね

レレサヨ「ところでなんか寒くない?」

ピチヒカ「さ、寒い・・・」

ワニヤ友「あ、雪だ・・・」

ギギ拓「いくらなんでも天気変わりすぎだろ————」

そしてしばらくして拓也達はようやく下山したのだった・・・

12話 泉の危険なハイキング（後書き）

拓也「ふー今日はトラブルだらけで疲れた・・・」
みづ「お疲れ様」

泉「私も疲れたから気力の残ってる人に次回予告やらせとして
みづ「というわけで次回は輝一君がピンチピンチ」
輝一「ピンチってなんだよ！？」
友樹「次回も大変そうですね」
みんな「次回もお楽しみに」

13話 ふたご町に到着、輝一、輝二最大のピンチ 前編（前書き）

拓也「」

輝二「なんだ？妙に機嫌いいみたいだけど」

みづ「わかつた！！」

みんな「??」

みづ「拓也が機嫌いい訳は今田の『デジモンクロスウォーズ』にある」

ヒカリ「なるほど」

輝一「今日のリロードチャレンジはアグニモンだつたもんな」

みんな「ああ」

輝一「ところで、最大のピンチってなんだ？」

輝二「確かに・・・」

みづ「シャイな二人にとつては最大なピンチかもね（^_^）」

輝一、輝二「なんでそこだけ機嫌がいいんだ！！」

みづ「といふことで本編スタート」

13話 ふたご町に到着、輝一、輝二最大のペンチ 前編

看板「ふたご」町、テリアモン、ロップモンの町へようこそ

ワーヤ友「ふたごちよーう？」

ピチヒカ「あ、知ってる」

レレサヨ「確かルー・チエモンが倒されてから急激に双子デジモンが増えているってそれでこんな町を創れるほど増えたって言う噂の町でしょ？」

みんな「へえー」

ギギ拓「まあ、ルーチエモンを倒せたのも輝一の闇と、輝一の光がなかつたら倒せなかつたかもしれないしな」

ピッパ「いす」「やっぱしその影響もあるのかしら？」

グミ「なんだい? ち向こうにこいつんだよ……」

ピチヒカ「とりあえず、輝一君の進化のきっかけがあるかもしだいから入つてみましょ」

「ふたご町へ

ロップモン姉さん「あ、ロップモンよ」

テリアモン姉さん「グミモンもいるわよ」

ロップモン妹「また新入りかしら？」

テリアモン妹「いつてみよつよ」

ミノ純「な・なんだ?..!」

ミノ純「な・なんだ?..!」

そして一瞬にして輝一と輝一の周りを囲んだ

ロップモン姉さん「あら、新しく生まれた子?」

テリアモン姉さん「あら、でもこの子は幼年期?だから違つんじやない?」

ハハ「え、と」

グミ「ん、と」

二人はシャイなためこの状況に戸惑つてゐる様子

ロップモン妹「あら、驚かせちゃつた?」

テリアモン妹「久しぶりに生まれてきたからみんな興奮しちやつたの」

ロップモン、テリアモン軍団「しかも久しぶりのちょーイケメンな
のーキャー」

「——俺達はただ旅してるだけで……」

グリル「うるにはたまたま立ち寄つただけです」

ピチヒカ「そりゃうるにはたまたま立ち寄つただけです——！」

ヒカリは柄にもなくそっけなく言つた

ロッブモン姉さん「あら、あなた達だあれ

テリアモン姉さん「見かけない顔だけど……」

ロッブモン妹「あなた達いたつけ？」

テリアモン妹「確かになかつた様な……」

みんな「いたよ（怒）」

「——とるで友樹と、泉は？」

グリル「そういえば……」

レレサミ「いない……」

ギギ拓「だあー、友樹はともかく、泉はまたかよ————」

「——と、とりあえず探すぞ——！」

グリル「お、俺も——！」

テリアモン妹「行っちゃダメーーー！」

グミー「痛つ」

テリアモン妹がのしかかりをしてきた

テリアモン妹「行っちゃダメ（ヒテ）」

グミー「そ、そんなー」

輝一は柄にもなく半泣きになっていた

そして、蹴飛ばされた友樹達の運命やいかに

後編に続く

13話 ふたご町に到着、輝一、輝二最大のピンチ 前編（後書き）

みづ「今日は前後編なので今日はみづだけで次回予告をさせていただきます」

みづ「次回のお話はなんと成長期は成長期でもかなりの強敵です
る輝一」

みづ「次回もお楽しみにー」

14話 ふたご町に到着、輝一、輝二最大のピンチ 後編（前書き）

前回のお話

みづ「ふたご町に到着した輝二達はすぐさまロップモン、テリアモンの団体に囮まれてしまった、そんな時そのロップモン、テリアモンに蹴飛ばされた泉と友樹」

輝二「二人とも無事だといいけどな」

みづ「さらに輝二はテリアモンの団体につかまってしまった、輝二の後を追いかけるロップモン軍団、どうなる？輝一！？」

輝二「早く戻つてこい・・・（落）」

みづ・輝二「本編スタート」

14話 ふたご町に到着、輝一、輝一最大のピンチ 後編

「――」「どこまで蹴飛ばされたんだ？」

ギギ拓「いきおこす」かつたもんな

レレンサ用「輝一が心配だから私は戻るわ」

ピチャヒカ「それがいいわね（にやにや）」

ギギ拓「おーい、じゅんペーい、何か見えるかー？」

純平はやじら辺にある木にぶら下がっていた

ミノ純「今のところは何も見えないな」

ギギ拓「つたぐ、本当にどこまで飛ばされたんだよ」

ミノ純「あれ？」

「――」「どうしたんだ？」

ミノ純「ふたご町のほうから何か来る・・・

ピチャヒカ「多分あれは、ロップモン軍団が追ってきたのね・・・」

「――」「やっぱ、隠れなきゃ」

ピチャヒカ「そりゃうう、それがいいわね（怒）」

輝一は木の茂みに隠れた

ロッパモン姉さん「あんた達一緒にいた子ね、 パパちゃんはエレベーターのかしづく」

輝一は背筋が寒くなつた

ピサヒカ（パパちゃんひて輝一君のひと）

ミノ純「すーっとあひを探してへるひて言つてたぜ

ロッパモン姉さん「そひ、 ありがとひ」

ダダダダダダダダダダダダダダダ

そういうとロッパモンが去つていつた

ギギ拓「輝一、 風が過ぎ去つたぜ」

パパ「さ、 さてと、 探すの再開するか

？？？「わわああああああああああああああああ

ギギ拓「こまのひは…」

ミノ純「泉ちゃんの声だ…」

ピサヒカ「行って見ましょ」

悲鳴のする方へいつてみて目にしたものは

みんな「泉！友樹！！」

泉も友樹もぼろぼろでさらには額に十の闘士のマークがあるレオルモンに止めを刺されようとしていた

闇デジヴァイス「レオルモン 成長期 聖獣型 ワクチン種 必殺技はレオクロ一 クリティカルバイト

黄金色の体毛を持つ臺灣形アシナガクモが生存するが、近年まで存在が確認されていなかった。

גַּעֲמָה וְקִרְבָּה

レオルモン「ぐるるるるるる」

ピチヒカ「そんな、聖獣型のデジモンでさえ操れるの？」

レオナルド・クリティカルバイト

匱乏の歴史

輝一以外みんな倒れた

二二一 「みんな...」

レオルモン「幼年期？のお前を最後に残してやつた」

「――（俺は確かに幼年期？だけど俺はみんなを守りたい……）や、俺なりにみんなを守るんだ！――」

とたんにデジヴァイスが光った

ハハ一「な、なんだ?」

デジヴァイスの画面の上に攻撃の攻といつ字が浮かび上がってきて
そしてそれが光ったとたんに輝一の体がそれに反応するかのように
金色に光った

ハハ一『ハハモンワープ進化!! ロップモン!!』

進化したと同時にデジモンテレケイアのような模様のデジタマが現
れた

ロブ一『ブレイジングアイス』

輝一の技が見事にレオルモンの額にあたり土のマークが消えた

ロブ一「これで成長期だから戻れるんだよな?」

輝一は試しに戻つてみた

輝一「本当に戻つた、でも・・・」

輝一はロップモンの姿になつた

ロブ一『ロップモン退化、チョウモン』

チョウ一「しばらぐこの姿にするか

レオルモン「あの、助けてくれてありがとう、お礼ですがぼく、あなた方について行つていけますか？」

チョコー「みんなに相談してから決めるよ、あと、ロップモンになれることは秘密にしてくれ」

レオルモン「分かりました、とりあえずこの方達をふたご町へ運びます」

チョコー「デジタマは俺が運ぶよ」

「ひじでレオルモンと仲良くなり、デジタマも生まれ、さらには輝一もロップモンになれるようになります

14話 ふたご町に到着、輝一、輝二最大のピンチ 後編（後書き）

みづ「今日は、輝一とレオルモンとみづだけで次回よこくです」

みづ「次回はデジタマから進化を司るデジモンが生まれ、輝一がいつの間にかヒカリにか習った機械いじりでなんかを発明します」

レオルモン「いつの間に習つたんだ？」

輝一「人には言えない大人の事情だよ」

レオルモン「意味わからんねーし、それに作者は中学生だ！！！」

輝一「でも、来年から社会人入りだよ」

みづ「次回もお楽しみにねー」

15話 クルモン誕生、進化を司る者（前書き）

みづ「今日は、前回の次回予告で機械いじりとか言つたけど予定を変更してもうちょっと先延ばしにします、どうもすいませんでした」

輝一「なんだよ、やんないのかよ」

みづ「だれもやんないだなんていつてないよ、ただ先延ばしにするだけ」

輝一「あつそ・・・」

レオルモン「ところで僕の件はどうなったんです？」

みづ「本編のお楽しみ」

みんな「本編スタート」

15話 クルモン誕生、進化を司る者

輝一は戻ってきたときあつたことをロップモンになれたことを伏せて説明した

グミー「だからみんなぼろぼろなんだな」

チヨコ「ああ」

レオルモン「僕はみんなのお役にたちたいんです、お願ひです」

グミー「まあ、今の俺達は幼年期だからかなり危険だしな」

？？？「いたたたた」

チヨコ「あ、気がついたか？」

ピチヒカ「う、うん」

レレサ^レ「あれ？輝一君なんで無傷なの？」

グミー「わざいえば・・・」

チヨコ^{じょく}「

レオルモン「えっと、あ、操られた僕がゆ、油断したからだよ」

ギギ拓「そり、なのか？」

ミノ純「その割には俺達には容赦なかつたけど?」

レオルモン「えっと・・・なんででしょ?」

ミノ純「聞くなよ・・・」

ロロロロロロロロ

ピチヒカ「デジタマ?」

ピシ、ピシシシ

レレサララ「へ、生まれるーー!」

ポン

? ? ? 「クリュリュ」

花でジヴァイス「クルモン 幼年期 聖獣型 ワクチン種
必殺技はシャイニングエボリューション

進化を司る者で四聖獣に慕われてゐる、幼年期ながらすごい力を持つ
とされている

ピチヒカ「この子どうしたの?」

グミー「輝一が持つてきた」

クルモン「輝一っていうクリュ? クルモン気に入つたクリュ」

チヨコ「えつと・・・」

ピチヒカ「なんかついてる」

レレサヨ「ところでクルモンのデジタルをビードビードヤハハ手に入れたの?」

チヨコ「えりと・・・」

クルモン「クルモンは輝一のディースキヤナから生まれたクリュ」

ヒヂヒカ「どう、レウ」とよ!!!!」

チ三二一はあ、進化するきつかけが無くなるから黙っていただか
たのに・・・」

「どうしてんだ？」

卷之二

輝一は金色の光に包まれた

チヨコ一『チヨコモン進化!!! ロッブモン!!!』

グミー・シ・進化した・・・

レオルモン「はあ、クルモン卵の中で聞いてただろ・・・」

クルモン「ついうつかりでクリュ・・・」

そして輝一はさつもの」ことをすべて話した

輝一「……それでこれがその浮かび上がってきたものだ」

そういって輝一はデジヴァイスを見せた

ピチヒカ「これは……紋章ね」

みんな「紋章?」

レレサヨ「でも、これは今までに見たことのない紋章ね……」

ミノ純「紋章って?」

ピチヒカ「紋章ってこののは一言で言えば心の特性」

レレサヨ「今までで確認されていた数は12」

ピチヒカ「勇気、友情、知識、誠実、愛情、純真、光、希望、優しさ、奇跡、運命、暗黒の12個よ」

輝一「じゃあ、おれのこの紋章は13個だと云うことか?」

レレサヨ「やうこいつね」

ピチヒカ「ちなみに私の紋章は純真と光

レレサヨ「私は愛情と誠実」

グリードーにも紋章をもつてゐるのか？」

ピチヒカ「まあね」

クルモン「…………！」

チヨコー「どうしたんだ? クルモン」

ピチヒカ「！…くる…！」

? ? ? 一 げしげし

月デジヴァイス「ガジモン 成長期 哺乳類型 ウィルス種
必殺技はパラライズブレス

ガジモン『パラライズブレス』

輝一はロッブモンになつた

二十九

ブリジングアイス

輝一はブレイジングアイスでパラライズプレスを防いだ

レレサミー ありがとう

四庫全書

ピチヒカ「ちよつとこれは・・・」

レレサヨ「ペンチかもね・・・」

ガジモン「くつくつく」

ギギ拓「しかもかなり性格悪いようだな」

ミノ純「俺達をいたぶつて遊んでやがる」

ガジモン『パラライズブレス』

ガジモンはパラライズブレスを撒き散らした

ピチヒカ「か・体がしびれる」

レレサヨ「く」

レレサヨ（こんな奴に負けるの？ こんな性格の捻じ曲がったやつに・
・ そんなのいやだ！ ！ ！ ！ ）

そつ思つたときサヨの体が金色に光つた

レレサヨ『レレモン進化！ ポコモン！ ！ 』

花テジヴィアイス「ポコモン 幼年期？ レッサー型
必殺技は殺生石

レレモンが進化した、夜行性の幼年期デジモン。夜でも月夜の晩に
しか行動しないことから、その存在は幻に近いと言われている

「バーカ」
ガジモン「進化したからといって成長期の俺様にはかなわねーよ。

ボウサヨ「そればどうかしり?」

ガジモン「なに?」

ボコサヨ 殺生石

サヨは石になつて悪臭をはなつた

ボクサヨーにまよ 輝一君ー!」

四一
おう

口ア —『ブレイジングアイス』

輝一のフレイジングアイスはみごとに額にあたった

クルモン「やつたでクリュ」

ギギ拓「なあ、これっていつ治るんだ？」

拓也達の体はまだしびれたままだった

ボコサヨ「わたしに任せて」

サマセビンからか薬草りしきものと、薬を調合する機会（しかも手

動の奴）を取り出した

そして薬草を調合し始めた

ギギ拓「本当に大丈夫なのか？」（ひそひそ）

ピチヒカ「大丈夫よ、私が保証する」（ひそひそ）

グミニ「それなら大丈夫だな」（ひそひそ）

ボ「サヨ「出来たわよ」

そしてみんな治った（サヨの薬は飲みやすいらしい）

みんな「なおったー」

ロア「よかつたな」

ワニヤ友「そういえば輝一さんはなんで動けたんですか？」

ロア「せつもサヨを底つた時と同じ方法でさ」

みんな「なるほど」

ピチヒカ（ちくつ）

ピチヒカ（ちくつ）「なんにも輝一君が気になるの？そしてなんで胸が痛いの？」

ロア「あれ？どうしたんだ？」

ピチヒカ「な、なんでもない」

ロア一（本当にどうしたんだろう？）

ちいさな疑問を抱いて大変な一日は終わった・・・

15話 クルモン誕生、進化を図る者（後書き）

みづ「やつと終わったー」
拓也「お疲れ」
みづ「次回予告の前にお知らせでーす」
みんな「??」
みづ「みんなは、ヒカリとサヨの過去を知りたくない?」
みんな「知りたーい」
みづ「と、いうわけでゲームのサンバースト、ムーンライトをベースとしたお話が始まるよ」
ギギ拓「でも、ヒカリたちがスピリットと出会った時の話は?」
みづ「もちろんするよ」
ヒカリ「ところで主人公はだれ?」
みづ「ヒカリだよー」
ヒカリ「やつたー」
???「俺達もでるぜ」
みんな「うわつ、あんたらだれ?」
みづ「あんたらの出番はまだまだ先!ー」
???「ちえつ」
サヨ「失礼しました、ということで次回予告びつば」
みづ「次回は夏だ海だというわけで次回の舞台は海」
ヒカリ「やつたー」
輝一「海、好きなのか?」
サヨ「・・・」
輝二「サヨ、さつきからだんまりだな」
ヒカリ「じつはね」
サヨ「いつちやだめ!ー」
ヒカリ「詳しくは次回で」
みんな「次回もお楽しみにー」

サヨ（次回になつてほしくない・・・）

16話 夏だ！海だ！！トラブルだーーーーー（前書き）

みんな「トラブルって何だよーーーーー！」

みづ「海といえばトラブルでしょ」

ヒカリ「ま、いいじやんいいじやん」

みんな「なんか、機嫌がいい・・・」

サヨ「はあ・・・」

輝二「こつちはこつちでため息をつこうるしな・・・」

みづ「とりあえず本編始まるよ」

みんな「だからトラブルってなんだーーーーー！」

16話 夏だ！海だ！！トラブルだーーーーーーーー

ポ「サヨ「ネットの海？」

拓也達一行は南の海に来ていた

ギギ拓「よく読めるな・・・」

ピサヒカ「楽しそう」

ポ「サヨ「や、そう?」

ロブー「ヒカリの進化のきつかけがあるかもしだいから行ってみよ?」

ポ「サヨ「えー・・・」

クルモン「楽しそうでクリゴ」

レオルモン「俺はあんまし海は好きじゃないな」

ロブー「そつかライオンデータから生まれたから苦手なのかな」

レオルモン「ま、そんなところかな」

ヒカリ「サヨも素直になればいいのに・・・」(ぼや)

ロブー「?なんか言つたか?」

ヒカリ「なんでもない、それより早く行こう」

ロブー「?あ、ああ」

ポコサヨ「あ、お先にいくなよ」

ミノ純「あ、お先にいくなよ」

そしてネットの海

ピチヒカ「わーい、海だ海だ」

グミー「本当に俺達より年上なのか?」

ポコサヨ「ヒカリは子供っぽいことがあるから

ワニヤ友「じゃあ僕達も泳げりよ」

ギギ拓「あ

ポコサヨ「あ、デジヴァイスは一応防水付きだけどなくされたら困るからおこひつて。見張りは私がやるから」

レオルモン「別に俺がやつてもいいけど」

ポコサヨ「こいのいいの私に任せて」

レオルモン「そんなにやりたいのか?だったら俺も泳がないからついでに見張りもするよ」

ポ「サヨ「やうへだつたら一緒にやれつ」

レオルモン「おお」

グリ一（何だよ）の気持ち？なんか胸が痛む）

ピチヒカ（うまい具合に口実を作ったわね（笑））

ピチヒカ「じゃあ早速泳ぎましょ」

ワニヤ友「でも浮き輪がないよ？」

ギギ拓「そつか、友樹はかなづちだつたもんな

ワニヤ友「うん……」

ポ「サヨ「でもあなた達もつけたほうがいいんじゃない？」

みんな「え？」

ポコサヨ「だつてヒカツと輝一君は別としてみんなの体の構造は人間の時と違つてきてるのよ？慣れまるまで浮き輪つけていた方がいいわ

ピチヒカ「だつたら私が教えてあげよつか？」

みんな「え？」

ピチヒカ「私、幼年期スイミングスクールの先生やつたことがあるの」

みんな「へえええええええ」

ポーナン「わ、私は別にこいわよ」

ピチヒカ「はいはい（呪）」

みんな「？」

グリード（あ、そういうえば・・・）

ピチヒカ「じやあひとつずつ準備体操でもするわよ」

みんな「はーー」

そして準備体操が終わり・・・

ピチヒカ「じやあひとつと待つて」

そつこつヒカリは海の中に入り深さを調べた

ピチヒカ「えーっと……………ひど、ここがちょうど幼年期でもおぼれない範囲だわ」

そつこつヒカリは仕切りを出してもおぼれない範囲を仕切り始めた

ピチヒカ「じゃあ、まずは浮いてみよー」

みんな（なんか嬉しそう）

そしてみんなはついに海に入つていつた

ピチヒカ「まあ」には普通に力を抜いていけばいいからね

ギギ拓「や」のところは人間と同じなんだな

ロア「なあ、ヒカリ」

ピチヒカ「ん?」

ロア「普通は潜る練習をしてから浮く練習なんじゃないか?」

ピチヒカ「あ……間違えた」

みんな「おこ……………」

ピチヒカ「じゃ、じゃあ潜る練習からこつてみよ!」

みんな(こつまにヒカリのテンションがた落ちだ…)

ピチヒカ「じゃあ大きく息を吸つて…そして潜る…」

みんな潜り始めた…そしてかなづちだという友樹にヒカリが付いた

ピチヒカ「がんばって…友樹」

ちなみにヒカリはピチモンはもともとネットの海で暮らしていた
水の中でも息が出来るしもむらん喋れる

ロフー「…………」

ワニヤ友「ふはつ…もうだめ…」

そしてみんなも息が苦しくなってきて浮かんできた

ピチヒカ「やっぱし幼年期になつたから肺活量も人間の時よりも小さくなつているのね」

そのとき…大きな波がみんなを襲つた！－！－！

みんな「…－．」

そして…

ギギ拓「みんな…無事か？」

友樹以外「あ、ああ」

ギギ拓「…－友樹がいない」

みんな「…－」

レレサ三四「波にさらわれたんだわ」

ピッパコ「す「そんな…」

ピチヒカ「私に任せで！－！」

そういうつてヒカリは沖の方へと向かつた

ロア「…………」

グミ「わから黙つてゐたんだ?」

ロア「なんでもない……」

グミ「? ?」

レレカヨ「分かつてないな」

ペペ「こはず「これはぱり恋の病よ」

レレカヨ「恵思ひみたいなんだけど」

ペペ「こはず「両方ともまだ自分の気持ち分かつてないみたいだから……」

レレカヨ「告白まだまだ時間がかかりそうね」

グミ「ああ、じゃあさつきから黙つているのは知らず知らずのうちに友樹に妬いてるって言つ」とか?」

ペペ「こはず「そういうとね」

その頃ヒカリは

ピチヒカ「友樹ー友樹ー」

ヒカリは友樹を探しに潜つていた

ピチヒカ「！！友樹！！」

ヒカリは友樹を見つけた、そしてそこら辺の大きな岩場に友樹を上げた

ピチヒカ「そろそろ出でたらどうなの？」

ヒカリがそうこうと岩陰から額に水の騎士のマークを付けたベタモンが出てきた

花デジヴァイス「ベタモン 成長期 両生類型 ウイルス種
必殺技は電撃ビリリン

四足歩行をする両生類型デジモン。性格は温厚で、おとなしいデジモンだが、ひとたびベタモンを怒らせると体から100万ボルト以上の電流を発し敵を攻撃する『電撃ビリリン』を放つ。』

ピチヒカ「…ねえ、場所を移さない？」

ベタモン「は？」

ピチヒカ「ここにはじ覽のとおり戦闘不能の状態の子がいるわ、その子を巻き添えにしたくないの…」

ベタモン「…まあいいだろ！」

そういうってヒカリとベタモンは海に入つていった

ピチヒカ（とは言つたものの幼年期お得意の泡攻撃は海の中じや使えないし逆に相手の電撃ビリリンの威力は何倍にも膨れ上がる…か

なり部が悪いわね）

ベタモン『電撃ビリリン』

ピチヒカ「きやああああああああ

ベタモン「ふん、あつけないなあ

ピチヒカ「うう」

ピチヒカ（普段おとなしいはずのベタモンがあんな残酷な性格になるなんて…）

ベタモン「止めだー！」

ベタモン『電撃ビリリン』

ベタモンは攻撃をくり出したがばずれてしまった

ベタモン「ちう」

だがベタモンの攻撃は通りすがりのプカモンに当たりそうになつた

ピチヒカ「きやあつ」

だがそのプカモンをヒカリが庇つた

プカモン「だ、大丈夫？」

ピチヒカ「わ、私は大丈夫…それより逃げて…」

「で、でも」

「早く……」

「う、うん」

「うう」

ヒカリは普段逃がしたはいいがもう限界が来ていた

「はん、普段逃がしたことになるんだ」

「……普段逃がしてなにが悪いの？ なにも罪がない子を庇つて何が悪いの？ 私は私がしたことを後悔なんてしていないわ！」

そういふると純真の紋章が光りヒカリが金色に光った

『ピチヒカ』『ピチモン、ワープ進化！ …モドキベタモン！ …』

「し、進化しただと？ しかも俺様と同じベタモンだと？」

「違うわよ！ モドキベタモンよ！ …」

「じつちでもいいわ！ …」

「まあ、いいわさつきの仕返しよ」

「ふん、たとえ進化しても傷は治らんようだな」

「う、ヒカリの傷は進化しても治らなかつたのです

モドヒカ「だつたら一撃で倒すだけよ」

ベタモン「なめるな……」

モドヒカ（だナビ電撃ビリコンは海にいるみんなをしごれさせりや
う…そだ…）

モドヒカ『ビリコンブレード』

ヒカリはとせかに電撃ビリコンの電気を集めそのとせかをブレード
フィンとして投げた。そしてそのとせかはベタモンの額の水の闘士
のマークを破壊した

モドヒカ「やつた」

ベタモン「あれ？僕は一体何をしてたんだ？」

モドヒカ「あ、気が付いた？」

ベタモン「はい、その傷は…どうやら僕は迷惑をかけてしまつたよ
うですね…お詫びをさせてください」

モドヒカ「えつ…そんな」とこわれても…うだ…ひとつだけ
頼みたいことがあるんだけ…」

ベタモン「はい？」

そしてみんなのところへもどった。… いまだに氣絶している友樹を背負つて泳いでるベタモンと一緒に… ちなみに時間はもう日が暮れていた…

ポコサヨ「あ、なにか泳いでくる」

モドヒカ「お……」

ロブ「あの声は… ヒカリか?」

グミ「同じデジモンが一體いるな」

モドヒカ「だれが同じデジモンよ(怒)」

ベタモン「よーくみてください、微妙に色がちがうでしょ?」

ポコサヨ「あ、本当だ…」

月デジヴァイス「モドキベタモン 成長期 兩生類型 データ種
必殺技は電撃ビリリン アクアタワー ブレードフィン
ベタモンの亞種だが、色彩が近いため見分けが付きづらい。
性格は大人しく静かに暮す事を好んでいる。」

ポコサヨ「でもずいぶんやられたようね」

モドヒカ「海の中で戦つたからね」

ポコサヨ「幼年期は水の中ではかなり不利だったんじゃない」

モドヒカ「まあ、しかも性格が逆走して残酷な性格になつてたか

「大変だったわよ

ベタモン「『迷惑をおかけしてどうもすこませんでした…』

グリル「……」

ロボー「どうしたんだ？」

グリル「いや…水、鋼、土、木、そして闇の闘士のマークしか操りの道具にされてない」とが気がかりで…」

モモヒカ「あ、私もさつ思つた」

ボンサム「あと、闇の闘士のマークが使われたのはたつた一回だけだつたし」

ギギ拓「そういえば気付いたか？」の五闘士の共通点…輝一には言いいこくいんだナゾ…」

ロボー「続ける」

ギギ拓「…元悪の五闘士だつてことを…」

みんな「…」

ボンサム「…これはあくまでも推測だけじ、もし、額のマークが闇の力で脳に直接話しかけて操れるとしたら」

モダヒカ「闇の闘士のマークはあまりにも闇の力が強大すぎる…」

ポコサヨ「だから脳じゃなくて強力な生命エネルギーが集まる場所」

モダヒカ「デジロアを暴走させる結果になつた」

ポコサヨ「あ、もうこんな時間…」

モダヒカ「じゃあ本格的な正論は明日よ」

みんな「はーい」

16話 夏だ！海だ！！トラブルだーーーー（後書き）

みづ「終わった、終わった」

拓也「なんか無理やりすぎないか？」

みづ「今回はかなりがんばったんだから見逃してよ」

泉「拓也、それくらいにすれば？」

輝一「作者もかなりがんばったしな」

拓也「まあ、そうだな・・・」

みづ「次回予告の前にお知らせ」

みんな「え？」

みづ「ヒカリと、サヨの名前の漢字が決まったよ」

ヒカリ・サヨ「やった」

みづ「まずサヨは・・・小さい夜と書いて小夜」

小夜「おお、ナイトクロウにふさわしい漢字」

みづ「次にヒカリは・・・日に花に莉と書いて日花莉」

日花莉「おお」

小夜「花の騎士にふさわしい漢字ね」

日花莉「うん」

みづ「そりゃあ、寝ないで考えましたから」

輝一「じゃあ漢字も決まったことだしそうぞろ」

みづ「はいはーい、次回のお話はさつき本編でいつたとおり作戦会

議といぐよ」

輝一「いつ作戦会議つて言つたんだ？」

日花莉「さつき無理やり終わらせたシーン」

輝一「シーンつてテレビじやないんだから・・・」

みんな「次回もお楽しみに」

17話 作戦会議ー?元懸の回顧+のパンチー前編ー(前書き)

??.?.?.1 「ハハ…早く…早く」の資料を…子供たちに渡さなくては
…」

??.?.?.2 「へつ…私達は…奴らの言になつこはなりたくない」

??.?.?.3 「せつかく生まれ変わつて善良に生きていたかったのによつ」

??.?.?.4 「…昨日の敵は今日の友…」

??.?.?.1 「早くダスクモンもと…輝一達にこれを…渡さなくては

??.?.?.1 (選ばれし子供たち)「この資料を渡さなければ我々のいる意味が無くなつてしまつ…早く…早くしなければ

17話 作戦会議ー?元悪の巨闘士のペントー前編ー

ポーナン「やへと… やつやく悪の五闘士のijヒを聞かせてもりこま
じゅうか?」

ギギ拓「まではメルキューレモンだ」

モードヒカ「鋼の闘士ね」

ギギ拓「ああ、悪の五闘士のコーダーだった」

グミー「かなり頭が切れててあいつの作戦に何回苦戦せられたか」

ペッパ「いす「次はラーナモン」」

ポーナン「水の闘士ね」

ピッコ「いす「あいつがまじでわがままでセフィロトモンに閉じ込め
られた時なんか私のトラウマを利用したのよ……」」

みんな（泉…性格変わったの）

ミノ純「しかもヒコーマンならまだいにナビーストは厚化粧でけ
ばこおばさん」

田花莉・小夜・輝一以外「うそつん」

ミノ純「次はグロツトモンだ」

モドヒカ「たしか土の闘士ね」

ミノ純「俺達が初めて戦つた悪の五闘士でもあるんだよな」

グミー「カラツキヌメモンに奴らの仲間と間違えられた時大変だつたな」

ギギ拓「そうそう」

拓也は苦笑いしながら輝一の言葉に同意する

ワニヤ友「次はアルボルモンだよ」

ポコサヨ「木の闘士ね」

ワニヤ友「うん、無口で何考えているかわからないの」

ピョウ「いづ」「しかも満月が重なる夜には腹が減るとかいってバーガモンの村を襲つたことがあるの」

ミノ純「その時に俺達がさらわれたつついに誰かさんたちがハンバーガー作り対決に夢中になつてさらわれたことでさえ気付かなかつた奴らもいたよな」

そつこつて拓也と輝一を呆れたような目で見た

拓也・輝一「あは、あははははははははは」

ポコサヨ「あれ? 元悪の五闘士でしょ? 私達を抜いてもこっちには

6人だよ」

ゲ!!! 「それは……」

チラッと輝一を見た

「...別に話してもいいよ...」

グミー「ダスクモンが最後の相手…」

モドヒカ「ダスクモン? データにはないわ」

グミー「ダスクモンは闇の騎士だ」

ボクサヨ「闇の騎士は一種類いるの？」

口一「ああ」

モドヒカ「輝一君? 顔色が悪いわよ」

グミー「輝一は元ダスクモンだ」

日・小一
！？」

口プロ「俺はデジタルワールドに行く途中階段から落ちて頭を打つたんだ、そして意識だけがデジタルワールドにいつてる状態だったけどデジタルワールドと人間界の狭間でケルビモンにダスクモンのスピリットを植え付けられてそれから記憶が曖昧なんだけど、輝二達にひどいことをしたのはよく覚えてる。それから闇の大陸でケルビモン幻が現れて俺をまた仲間に引き入れようとしたけど輝二にスキンシップされていた闇のスピリットがレーべモンとカイザーレオモン

に変化した。これが一年前、詳しく述べた今度話すよ

モドヒカ「つらかつたんだね」

ポコサリ（ビラツで最初会ったとき田花莉とどこか似てると思った）

モドヒカ「…………だれ…………」

？？？「うう」

バタツ

ギギ拓「…? メルキュー レモン…?」

メルキュー レモン「ひ、久しぶりですね……」

？？？「はあはあ」

バタツ

ピヨコいづ「ラーナモン! ?」

ラーナモン「あんただけにはこの無様な姿を見られたくないかったわ
ね」

？？？「くつ」

バタツ

ミノ純「グロットモン! ?」

グロットモン「よう」

????4「……」

バタツ

ワニヤ友「アルボルモン!-?」

アルボルモン「……」

そして元悪の四騎士は氣絶した

モドヒカ「とりあえず安全なところへ…ベタモンの海の家にいくわよ

ポコサヨ「とりあえず日花莉は海の家に行つたらフラー・モンになつて傷を癒すのよ、私は薬草探してくる」

モドヒカ「分かったわ」

グミー「でも連れて行く手段はどうするんだ?」

ポン

日花莉は人間の姿になった

日花莉『リロード、バスモン、キャッサー』

キャッサー「呼んだかにゃー」

日花莉「この4人を海の家に運んでほしいの」

キャシー「じゃあ私の中に乗せてほしーのじゃー」

日花莉「輝一君手伝つて」

ロブー「ああ」

ポン

そういうと輝一は人間の姿になった

日・一『スピリットエボリューション』

日花莉『ライナモン』

輝一『レーベモン』

ライナモンはラーナモンとグロットモンをレーベモンはメルキューレモンとアルボルモンをかかえてキャシーの中に乗つてレーベモンはメルキューレモンとアルボルモンを寝かせて進化を解いた。ライナモンは外に出た。

ライナモン『ライナモン－スライドエボリューション！－フラワーモン！－！』

フラワーモン「私は先にベタモンの海の家に行つてゐるから

そういうつてフラワーモンは疾風の」と駆けていった

そしてキャシーは海の家に着いた

キャシー「あれ? フラワーモンはゼン? ヤン?」

ダダダダダダダダダダダダ

みんな「??」

ーン

何かが後ろからキャシーに突進してきた

フラワーモン「や、やつと止まつた…」

輝一「なんで後ろからくるんだよ?」

フラワーモン「どうやらい? せ島のよつね…そして私は猛スピードで駆けて行つたはいいけどスピードを出しすぎて海岸を一周してキヤツーのおかげでやつと止まれた見たい」ヤン

グミ「キャシーのまねしじ? まかすな」

キャシー「それより早く元悪の四騎士達をおひじてほし? ヤン」

フラワーモン「やうだつた…」

フラワーモン『フォーチューンフラワーテイル』

フラワーモンの花で出来た尻尾が四つ股になつて伸びてラーナモン、

グロットモン、アルボルモン、メルキューレモンをつかんだ

輝一「そういう技があるんだつたら最初から使えよ…（呆）」

フラワーモン「忘れてました…（苦笑）」

ミノ純「フラワーモンってすいこんだけど…」（ひやひや）

ギギ拓「たまにいつかじょり抜けてるんだよな」（ひや
ひや）

フラワーモン「ヤレ～聞こえてるんですけど～（怒）」

拓・純（ドキッ！？）

フラワーモン『シッククスフラワーテイル』

拓・純「さあああああああああああああ」

輝一（日花莉だけは怒らせたくないな…（恐））

キャシー「猫の耳は以外にいいからフラワーモンの時にはあんまり
ひそひそ話しさないほうがいいのニヤ」

拓・純以外「なるほど」

そして海の家に寝かした

ベタモン「あれ？あなた方は日花莉さんのお仲間さんではないですか…！…けが人がいるみたいですね…奥の部屋を使ってください」

輝一「あつがとつ…」

輝一（）「人はフラワーモンのせいで怪我をしたんだけな…」

ちなみに今の状況は元悪の四騎士はもういん、拓也と純平まで運ばれて来たのだ

ポコサコ「ただいまって…なんかけが人増えてない?」

ポコサコ（やでは口花莉を怒らせたな…）

ポコサコ「どうあえず薬草を塗つてからアロマセラピーやって

フラワーモン「了解

そして薬草を塗つた

フラワーモン『アロマセラピー』

フラワーモンは癒しの波動をだした

ワニヤ友「あれ? 薬草が塗られた部分が光つてゐる…」

そう、薬草が塗られた部分が癒しの波動と共鳴してゐるかのように光つていたのです

ポコサコ「ああ、あれば癒しそうつていつてね一見ただのどこで
も生えるような花なんだけどねなんと癒しの波動が共鳴してさら
に傷が早く治る効果を持つの、ビックリでも生えてる花だから補充も
簡単だしね」

みんな「へえー」

フラワーモン「……なにか……来る」

グミー（なんだ？）この感じ……俺でも敵が来ることが分かる……しかもかなり強い、毛が逆立つほど強い気配だ……）

フラワーモン「しかもかなり強い……幼年期や、成長期がかなり相手じゃない……輝一、私だけじゃ敵いそうにないから一緒に戦つて。みんなは隠れてて！！」

輝一「分かった！！」

ポコサワ「でも」

グミー「やめとけ……今回の敵は俺達幼年期が敵つ相手じゃない……」

みんな「…………」

輝一『……スピリットエボリューション——レーベモン——』

フラワーモン『フラワーモン！——スライドエボリューション——ライナモン！——』

ライナモン「行くわよ……」

レーベモン「ああ……」

そしてライナモンとレーベモンは強い敵に向かつていった……後編に

続
く

17話 作戦会議ー?元悪の因幡十のパンチー前編ー(後書き)

みづ「今日は前後編だから拓也達はいなーから私だけでやらせてもいいや」

みづ「次回は輝一の守りたいといつ気持ちが爆発」

みづ「はたしてどうなるのか」

みづ「次回はextreaの方でシンントレーラをやるよ、見てね」

みづ「次回もお楽しみに」

18話 作戦会議ー?元悪の巨魔十のパンチー中篇ー(前編)

みづ「まあ、すこませんでした……」

クルモン「なんでほつといたんでクリュ?」

みづ「えつと、ハ戸に行つてそれで更新が遅くなつました」

輝一「早くしてくれよ、こつまで待たせる氣なんですかい?」

輝一「輝一がキャラ崩壊!…?」

みづ「あ、『じめん…輝一ファンも』めんなさい…間違えて銀〇の沖〇になつちやつた」

拓也「こべり前書きだつて中の人ネタはやめろ(呆)」

輝一「次回予告のとつづ輝一の守りたい気持ちが爆発!…どうなる」

みんな「本編スタート」

18話 作戦会議！？元悪の四騎士のペンギー中篇

？？？「ぐおおおおおおおおおお……」

レーベモン「あれは……？」

光デジヴァイス「キメラモン 完全体 合成型 データ種必殺技はヒート・バイパー

デビモンの両腕、スカルグレイモンの左腕、クワガーモンの右腕、ガルルモンの足、グレイモンの胴体、モノクロモンの尻尾、メタルグレイモンの髪、カブテリモンの頭、エンジェモン、エアドラモンの翼をもつ合成獣型のデジモン。」

レーベモン「かなり強い闇の力を感じる… それぞれのデジモンのパーツから感じる…」

ライナモン「見て！…あいつの額」

キメラモンの額には以前のモノクロモン達のより漆黒の闇の闘士のマークがあった

ポコサヨ「強制ジョグレスをさせられたみたいね」

グミ「強制ジョグレス？」

ポコサヨ「うん、ジョグレスっていうのは一体のデジモンが合体進化するの、あ、でもこれは複数だからデジクロスか」

ワニヤ友「デジクロス？」

ポコサヨ「うん、デジクロスはね、ジョグレス進化とちがって複数のデジモンが合体することが出来るの、といつても見つかったのはつい最近であんまし分かってないんだけどね」

キメラモン「ぐるわおおおおおおおおおおおお」

レーベモン「すごい闇の力だ」

ライナモン「意識があるわけないわね」

レーベモン「ああ、一匹でも意識がないほど強力なのにそれが十体ぶんもいるんだからむしろ闇の力が強力すぎて消滅してもおかしくないはずだ」

ライナモン「もしかして四騎士達はこのことを知つて私達に伝えようとしたところを襲われたって言うことなの?」

レーベモン「くるわ」

キメラモン『ヒートバイパー』

レーベモン「エンシントの盾」

やつこいとエンシントスフィンクモンの顔をした盾が現れた

そしてライナモンを守るよつてライナモンの前に立った

レーベモン「今のうち逃げろ」

ライナモン「でも」

レーベン「早く...」

「ハーフモード」

۱۰۷

ルーベンズ「スカル」

バリーン

レーベモン
一ぐわああああああああああああああ

盾が壊れてしまいレーべモンは吹き飛ばされてしまった

レオルモンーレーベモンー！

グミー「くっそ、俺がもつと力があればレーベモンを…輝一を守れたかもしないのに」

ライナモン（ビルジニア）、「誰か隙を作ってくれなければ癒せない（）」

キメラモンがレーべモンに止めを刺そつとしている

グリード「輝」――――――――――

その瞬間盾のマークが現れ輝一の体が金色に包まれた

グミー『グミモン進化！！』

テリニ『テリアモン』

ポン

輝一は人間の姿になつた

輝一『スピリットトエヴォリューション』

ウォルフモン『ウォルフモン』

ウォルフモン『ライトシールド』

ウォルフモンは光の結界をはつてレーベモンを守つた

レーベモン「ウォ、ウォルフモン…？」

ウォルフモン「大丈夫か？レーベモン」

キメラモン「ぐるおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお

キメラモンは怒り狂つた

ギギ拓（なぜど○クエ風！？）

ウォルフモン「ライナモン、レーベモンつを頼む」

ライナモン「ええ」

ライナモン『ライナモン、スライドエヴァオリューション』

『フラー・モン』『フラー・モン』

レーベモン「坂をつかねよ…」

ヴォルフモン「ああ」

フラー・モン「レー・ベモン、とりあえず安全な場所へ…」

フラー・モンはレー・ベモンをつれてベタモンの海の家に入つていった

ヴォルフモン「いくぞ!! キメラモン」

カタマリノハナシ

ヴォルフモン『リヒト・ズイーガ』

キメラモン『ヒートバイパー』

ヴォルフモン『ライトイシールド』

キメラモン「ぐるわー？」

キメラモン「ぐるああああああああああああああああ

ウォルフモンはいつの間にカリヒト・ズイーガではなくツヴァイ・ズイーガでキメラモンを一刀両断し、キメラモンの体は黒くなりデジコードが現れた

ウォルフモン「闇に蠢く魂よ、聖なる光で浄化する—デジコードスキャン！」

そしてキメラモンは消滅し、パーティのデジモン達が一段階退化した姿でいた

パタモン「あれ？僕達はいったいなにしてたんだっけ」

ウォルフモンはデジコードに包まれ輝一に戻った

ポン

そしてテリアモンになった

月デジヴァイス「テリアモン 成長期 獣型 ワクチン種
必殺技はブレイジングファイア プチツイスター ダブルタイフーン
テリアモンはロップモンと逆の炎の属性を持つ双子のデジモン、ロップモンの合体技、ダブルタイフーンで相手をなぎ払う戦闘種族」

フラワーモン「輝一、大丈夫？」

テリー「大丈夫だ…それより輝一は？」

フラワーモン「輝一は大丈夫…だけど四騎士達の傷が酷いわ…分解

しかけてるの」

ワニヤ友「大丈夫なの?」

フラワーモン「私の力で出来るかどうか分からぬけど手を貰へしてみるわ」

ポコサヨ「私は薬草をとつてくるわ」

クルモン「クルモンも出来る」とがあれば言ってほしいクリュ」

レオルモン「僕も…せつかく生まれ変われたのに死んでしまうなんてかわいすぎだよ」

テリー「なあ、四騎士達が伝えようとしてたのはこのことだったんじゃないのか?」

ポコサヨ「それってどうこう…・・・」

テリニ「入つて来い…」

パタモン「僕・パタモン」

ペルトビモン「俺はペルトビモンだ」

テントモン「うちはテントモン」

ゴクワモン「僕、ゴクワモン」

グレイモンB「俺はグレイモン青だ」

グレイモン「僕はグレイモン」

ガブモン「俺はガブモン」

アグモン「俺はアグモン」

モンドラモン「俺はモンドラモン」

リュウダモン「せつしゃはリュウダモン」

テリニ「こいつらを見てなんか気付かないか？」

フワフーモン「……キメラモンの……パーティの退化系

みんな「…？」

テリニ「正解だ」

ポコサコ「まさか…！」

テリニ「そのまさかだ、奴らは強制的に操った奴を進化させられる
ことが出来るんだ。もっともこれは俺の推測だが今のところ闇の闇
士のマークで操られた奴らしか進化はさせれないけど闇のマークは
闇の力が強力すぎてさすがの七大魔王でも制御できないでいる」

ポコサコ「確かに…ありえるわね」

ペココ「…」「あら…」れはなにかしら？

「ハハーモン」「なんかの書類みたいね」

ボーナム「どうあえず詳しへば四鬪士達が元気になつてからよ」

ハハーモン「わうね、じゃあ早くしなや」

ロニー（田代行／タマニングが掴めない……）

ギギ拓「じゃあ俺達も四鬪士達が早く元気になつてもひつために看病や少しのサポートをするよ」

みんな「うそ」

ハハーモン「あつがとつ

そしてみんなは四鬪士達の看病を始めた

後編に続く

1-8話 作戦会議ー?元懸の回顧十のペントー中篇ー(後編)

みづ「ちゅうと終わらすの無理やつ過ぎたかな?」

みづ「まあいいか」

みづ「次回は小夜の用の力が田覚めるよ」

みづ「どうなるのかな?」

みづ「次回もお楽しみに」

19話 作戦会議ー?元懸の巨闘十のペントー後編ー(前書き)

みづ「ちゅうとこりあつまして更新遅れました(ト)」

拓也「うへおー…(泣) なら分かるばび(ト) うへなんだ…」

みづ「本編で出張中じゃなかつたつナ~」

拓也「いや、前回も前書きに出てからなー…(泣) うへ
なんだ」

みづ「いやー、プライベートだからいいやんこよ!」

拓也「あ…ヒ、とうえず本編スタートな…」

なんかすんません、前書きから暗くなつてしまつて

19話 作戦会議！？元悪の四騎士のピンチ後編

フラワー・モン「はあ、はあ、はあ」

ロブー「大丈夫か？ 三日三晩寝てないんだろ？」

輝一がそう言つとフラワー・モンは人間の姿になり、力を使い果たしたのかプカモンに退化してしまった

プカヒカ「大丈夫よ…」

ふらつ

ロブー「おつと、言つてるそばから大丈夫じゃないじゃないか」

倒れる田花莉を輝一が受け止めた

プカヒカ「だ、大丈夫よーー」

ロブー「いいからちょっと休め、田花莉が倒れたら元も子もないからな」

その頃田花莉達がいる部屋の前では

ポコサヨ「ふーん、結構いい感じじゃない」

テリー「盗み聞きする暇があるなら薬草でも探しに行け」

ポコサヨ「だつて、集めすぎてしまうことがないんだもん」

小夜が指した先はまつピenkになつた部屋で、よく見たら薬草だつた

テリニ「ある」とがないんなら口花莉の変わりに四鬪士達の看病でもしろ（呆）」

ボロサヨ「つてこつか他のみんなは？」

テリニ「拓也と泉は魚を取りに、友樹と純平は森に食料を探りに、クルモンとレオルモンはベタモンの海の家で手伝わされてる」

ボロサヨ「ふーん」

その頃…拓也・泉は

ギギ拓「…やつぱなかなか釣れないな」

ペココニ「やつぱしこんな浅い所ではなかなか釣れないわよ」

ギギ拓「でもなあ、船は貸してくれないし、釣竿も木の棒じゃなあ」

ペココニ「うーん、じゃあとつあえずもひとつ歩いて見る?」

ギギ拓「やうだな…………やうすつか」

ペココニ「うそ」

その頃…純平・友樹は

「……純、『』の物の『』食べれるかなぁ？」

ワニヤ友「うーん、僕は獣型デジモンで、純平ちゃんは昆虫型デジモンだから本能に従えば『』と思こますよ」

ミノ純「やうだな」

そして小夜・輝一に戻り

ポコサコ「ハーン、食料なら私も行こうかな」

テコニ「それよつお前まじのパンクな部屋をなんとかしら（怒）」

ポコサコ「『』ことがあのつかと、田花莉にもむりつた四次元ポケット～」

テコニ「おこー！それビックで見た」とあるぞーー！」

そつ、小夜と田花莉は自分達のポケットに仕込んでる四次元ポケットから物を出していったのだ

ちなみに輝一が言つたよつての『』の四次元ポケットはアホもんこで
てぐるあの四次元ポケットである

さうして田花莉のポケットに通じるいわゆるスペアポケットなのである

テコニ「……やうこいつがあるんだつたら最初に入れとけ」

ポコサコ「まあまあ、怒んない怒んない」

テツ二 「つたぐ（怒）」

ロブ一 「…………お前ら、そこでなにやつてんのだ？」

ポコサヨ「うーんつと、四体の看病？」

ロブ一「疑問系……」

ポコサヨ「えつと、四体の看病は私達に任せて輝一君は日花莉の看病をして」

ロブ一「ああ……」

ズドオオオオン

テリ二「なんだ！？」

ポコサヨ「この臭いは…火事！…」

ロブ一「なに！？」

ポコサヨ「私は日花莉をなんとかするから一人は四騎士達を…」

輝一・輝二「ああ！…！」

ポン ポン

輝一と輝二は人間になつた

輝一・輝二「スピリットエボリューション！…」

レーベモン『レーベモン！－！』

ヴォルフモン『ヴォルフモン！－！』

そして、レーベモンはメルキューレモンと、ラーナモンを、ヴォルフモンはグロットモンと、アルボルモンを抱えて海の家から出た

「カヒカ」「ホツ」「ホツ」

「コサヨ」「田花莉！－！大丈夫！－？」

「カヒカ」「だい…じょう…ぶ」

「コサヨ」「動ける？」

「カヒカ」「う…！」めん…や…け…ど…して…う…！」け…ない」

「コサヨ」「くつ」

（田花莉…喉をやられてる…でも…どうしよう、田花莉は
カモンだからこのままじゃ命が危うい…田花莉を助けたい…）

その瞬間…小夜は金色の光に包まれた

「コサヨ『ポコモン！－！進化！－！』

「ナサヨ『レナモン！－！』

その頃…レーベモン達は

ギギ拓「おーい！何があった！？」

クルモン「大変でクリュー！大変でクリュー！」

ヴォルフモン「見ての通り火事だ！！」

レーベモン「田花莉達がまだ中に……！」

ヴォルフモン「……なにかくるぞ！」

？？？「フフフ」

ギギ拓「あいつは……」

炎デジヴァイス「ヨウコモン 成熟期 妖獣型 データ種
必殺技は、焰球ほむらいだま 邪炎龍じやえんりゆう

キュウビモンの亞種。キュウビモンとは違い破滅と破壊をもたらす
妖獸と恐れられている

レオルモン「……あれを見ろ」

みんな「！？」

リウモン「ちつ、四鬪士達の抹殺、失敗したか

みんな「なつ」

ワニーヤ友「理性があるー!？」

ミノ純「…遂に実験が成功したって言つのかー?」

ヨウ「モン」「まあ、いい、邪魔な奴ら、一人も抹殺出来たのだからな」

レーベモン「はつ、田花莉!…」

ヴォルフモン「小夜!…」

？？？「誰が抹殺されたって?」

ペコ「いす「この声は!…」

レナサヨ「よくも田花莉を…妹をこんな田にあわせてくれたわね!」

!」

そこにはいたのはポコモンではなくてレナモンだった

風デジヴァイス「レナモン 成長期 データ種

必殺技は弧変虛

狐葉楔

金色狐の姿をした獣人型デジモン。冷静沈着でパワーバトルよりスピードを生かしたバトルが得意、頭脳戦も得意

レナサヨ「ヴォルフモン、田花莉を守つて、レーベモンは援護を!…」

レーベモン「ああ」

ヴォルフモン「分かつた」

ポン

小夜は人間の姿になつた

小夜『スピリットエボリューション…』

ムーンビットモン『ムーンビットモン…』

ムーンビットモン「行くわよ…」

ムーンビットモン『ムーンイルミネーション』

どうこう訳か月夜の世界になつた

レーベモン「周りの景色になつた！？」

ムーンビットモン「私たちの世界のスピリットは自分の最適の環境に変えることが出来るの、もちろん戦闘が終われば元に戻るけどね」

レーベモン「ほつ」

『ウーモン「ふん、俺にとつても戦いやくなつたぜ…」

『ウーモン『邪炎龍』

ムーンビットモン『月のエネルギー』

月のエネルギーは邪炎龍を容易く飲み込んだ

ムーンビットモン「レーベモン、ウォルフモン、」のエネルギー弾の中に技を…」

レーベモン『エントロビ・メテオール』

ウォルフモン『ソーラーピーム』

そしてエネルギー弾に取り込まれた

ムーンビットモン『邪炎ソーラー・メテオールムーン弾』

『わ！』「ぐわああああああああ」

デジコードが浮かんだ

ムーンビットモン『ムーンビットモン…スライドエボリューション…』

ムーンビットモン『ムーンビットモン…』

ムーンビットモン「闇に染まりし魂よ、月の光で浄化する…デジコードスキヤン」

『わ！』はラブランに退化した

ムーンビットモン「ウォルフモン、日花莉達を」

ウォルフモン「あ、ああ」

ムーンラビモンは目を閉じ、手を添えて

ムーンラビモン「月の精靈よ」のもの達に力を『与えよ』

ムーンラビモン『ムーンヒーリング』

そう言つと月の精靈が出てきてなんか魔法みたいのをかけはじめた
ギギ拓「そういう技があるなら最初から使えばいいんじゃないのか
?」

ムーンラビモン「月の精靈なんだから月夜しかこの技は使えないの」

輝一「そういえば最近月とか見てないな」

ムーンラビモン「そう、だから使いたくても使えなかつたの」

そして戦闘も終わり元の海の家（残骸）の前に帰ってきた

プカヒカ「う…うーん」

小夜「日花莉、大丈夫?」

プカヒカ「う、うん…まだちょっと喉が痛いけど…」

小夜「そう…よかつた」

輝一「本当によかつたな」

ギギ拓「おーい…メルキューレモン達も目を覚ましたぞ…」

メルキューレモン「久しぶりですね、輝一」

輝一「あ、ああ」

小夜「始めてまして、私は月野小夜」

メルキューレモン「はい、私は鋼のメルキューレモン」

ラーナモン「私はみんなのアイドル、水のラーナモンよ」

グロットモン「俺は土のグロットモン」

アルボルモン「木のアルボルモン」

プカヒカ「私は日花莉」

小夜「で、私達に用があるんじゃないの？」

メルキューレモン「はい、私たちはあなた方が私たちの封印を解き、肉体を探してさまよい、ようやく肉体を見つけたと思いました」

グロットモン「急に七大魔王の奴らに捕まつたんだ！…」

ラーナモン「それでね、急に捕まつたと思ったら急に私たちの水、土、鋼、木のエネルギーを吸い出したと思ったらなんか七大魔王達のエネルギーを合わせて出来たのが」

小夜「…デジモン達の額にある、水、土、鋼、木のマークね」

アルボルモン（コクツ）

輝一「で、でも、それだったら四騎士達の力を直接吸い取つてゐる、闇の騎士のマークはどうやって作つてゐるんだ！？」

メルキューレモン「それは、七大魔王の力を奮発して作つています」

グロットモン「つまりよ、お前が、カイザーレオモンさえ、捕まんなければ七大魔王の力はちょっとばかし落ちるつてことよ」

ラーナモン「とにかくで、私たちもあなた達についてつていいかしら？」

プカヒカ「いいけど・・・大人数で旅をしたら目立つ上にあなた達は仮にも十騎士、かなり目立つわ」

アルボルモン「...だけど俺達、お前達のビーストの居場所しつてる」

ミノ純「マジ！...」

小夜「うーん...」

プカヒカ「ピーン」

プカヒカ『プカモン、進化！！』

モドヒカ『モドキベタモン！！』

ポン

人間の姿になつた

田花莉「じゃあ、」の「擬人化マシーン」を使ひ?.

フーナモン「そんなのを使わなくても、スピリットをしまこしめる
器さえあれば普通のデジモンになれるわよ」

田花莉「…十騎士全員分のデジヴァイス預かってきたのナゾ?」

小夜「隊長たちは」「うなる」と予測してたのね

メルキューレモン「ですが『スピリットエボリューション』ってビ
ースト型には難しいんじゃ?」

田花莉「…じゃあ、デジモンになれて、それでもって、擬人化も
する?」

グロツトモン「…擬人化だけでもいいんじゃ?」

田花莉「あのね、そうしたら、拓也達の進化の切っ掛けがなくなつ
ちゃうでしょ」

ギギ拓「確かに…」

小夜「それに、場の状況に合わせてたとえば…」

田花莉「海にデジモンが現れたらライナモンは圧倒的に不利、でも、
モドキベタモンなら?」

アルボルモン「…有利になる」

小夜「つまり、普通のデジモンでも、使い分ければ有利になるっていい」と

メルキューレモン「とりあえず、普通のデジモンになりますよ」

四騎士たちはデジモンになった

炎デジヴァイス「ガオモン 成長期 獣型 データ種
必殺技はローリングアッパー ダブルバツクハンド ガオラッシュ
とても頭がよく、冷静なデジモン、ガジモン系の亜種と考えられるデジモン」

ギギ拓「…見た目はともかく性格は似ているな」

雷デジヴァイス「ドラゴモン 成長期 龍型 データ種
必殺技はベビー・ブレス テイルスマッシュ ジ・シユルネン
全ての龍型デジモンの”祖”と言われるデジモン。宝石が大好物」

ミノ純「…まあ、見た目はともかく本能的には土の騎士だな」

風デジヴァイス「ムーチョモン 成長期 鳥型 データ種
必殺技はアーデントフレア

ベンモンの亜種、ベンモンとは違い暖かい場所を好む」

ピューピー「…ラーナモンと同じで派手なもの好きそう」

光デジヴァイス「コエモン 成長期 獣型 ウィルス種
必殺技はミスチバスフープ ベビースリング

自分の体ほどのあるパチンコを軽々とあやつる力持ちで、狙った獲

物は逃がさない自信を持っている

輝一「…なんとなくアルボルモンの面影があるな…」

小夜「確かに」（苦笑い）

日花莉「つていうかアルボルモンとラーナモン以外はあんまし似てないような？」

ドラコモン「早く擬人化せろ（怒）」

日花莉（なんか機嫌悪い？）

日花莉「…スイッチオン」

ピカ一

光ったと思えば田の前に四人の人間が…！次回へ続く

19話 作戦会議ー?元悪の四騎士のペントー後編ー(後書き)

拓也「無理やり過ぎだ」

みづ「しょうがないじゃん、もつ力尽きたし、まだ四騎士達の人間のいるの名前考えてないし」

泉「じゃあ、ネタが纏まつたら更新?」

みづ「そうだね」

純平「じゃあ次回予告」

みづ「次回は拓也が大変、大変」

拓也「…………」

泉「がんばって」

みんな「次回もお楽しみに」

拓也「…………」

20話 勇氣を見せろー！赤い魔竜、ギルモン！（前書き）

みづ「うーん・・・」

拓也「どうしたんだ？」

みづ「四騎士の名前はさつき決まつたんだけど、まだ、完全にネタが纏まつてないんだよね・・・」

拓也「M A · N I · K A」

輝二「拓也がキャラ崩壊！！」

輝一「元に戻れ！！」

みづ「大丈夫、本編までにはキャラをもどすから」

日花莉「星が黒いよ！..」

みづ「あはは」

小夜「作者が壊れた！..」

純平「考えすぎて頭が爆発したんだな」

友樹「（）愁傷さま」

純平「友樹もキャラ崩壊！..」

みづ「始めるよ」

20話 勇気を見せろ！！赤い魔竜、ギルモン！！

みんな「おおー」

目の前に人間が現れた

一人は赤い目に、しづくの帽子、透き通つた白い肌に金髪
服装は、水色の服にスカートで、胸と帽子に赤い宝石の女の子
そう、この子はラーナモンが擬人化した姿だ

ラーナモン「かーわいい」

二人目は黒い瞳に栗色の髪、白い肌

服装は枯葉の服に枯葉のズボン

そう、枯葉で分かつたと思うがアルボルモンが擬人化した姿だ

アルボルモン「・・・・・」

三人目は小人が被つてそうな茶色い帽子、オレンジの髪、土色の肌、
茶色い瞳

服装は茶色の服にパープルの半ズボン

そう、ブリツツモンだ

ブリツツモン「なんかあんまし変わんないような…」

そして最後は緑の瞳に下まつげ、銀髪でトンガリ帽子を被つている
服装は緑の服にジーパン
そう、メルキューレモンだ

メルキューレモン「おお、美しい」

ギギ拓「え」

ラーナモン「え」

グローブモント
「え」

みんな「ええええええええええええええ」

ギギ拓一な、なんかナルシストになつてないか！？」

「ナーナモン、もうなべていいの!?」

「カヒカ…なんか、一重人格になつちやつたみたいね」（苦笑）

ケーツモントー重人格！？

小夜「デジモンの時はいつもの性格だけど、人間の時はナルシストになっちゃうみたいね」

ワーナー友「とにかくでさあ、君達に名前決めたいんだけど」

ラーナモン「え？」

ワニヤ友「だつて、人間の時にデジモンの時の名前だとおかしい感じがするもん」

「確かに」

小夜「じゃあ、決めるんだつたら苗字も決めた方がいいんじゃない」

プカヒカ「うん、前みたいに七大魔王たちが人間界に行くかもしねないからね」

ミノ純「だな」

クルモン「苗字って何クリュ?」

ラーナモン「わかんない」

プカヒカ「えっと、例えば私のフルネームは太陽 日花莉だし、でも、みんなは下の名前で普段、私を呼んでるでしょ?」

アルボルモン「…つまり、上の名前…」

小夜「そうそう」

ラーナモン「うーん…そうだわ!…じゃあ、私の名前は水野 アクアに決定よ」

ワニヤ友「アクア?」

ミノ純「水つていう意味だな」

輝一「いいんじゃないか?」

アクア「でしょ」

アルボルモン「…お任せ…」

「木野 ウッシュは？」

ウッシュ「分かった」

「俺は…地面つて意味の土田 グロッシュじゃんぜ」

ギギ拓「まんまだし長いからあだ名を決めていいか？」

グロッシュ「ああ」

ギギ拓「ロッシュだ」

ロッシュ「分かった」

「では、私は鋼 スチールと、いつ美しい名前に
いたしました」

（ボソッ）

スチール「ん？なんか言いましたか？」

輝「別に…」

ギギ拓「まあ、いいんじやないか？」

「あんまし褒めない方がいいんじやない？」

「乗るぞ」

アクリア「ロジックはつづく」

スチール「ははは、やうやくよ！」

みんな「せりあ」

ギギ拓「いぬん」

小夜「ひざこからトジモンになつて……」

スチール「もううらうらじいの姿でいたいんですけど……」

小夜^{ギロツ}

スチール「ひつ」

プカヒカ「：小夜をあんまし怒らせないほうが身のためよ」（ブルブル）

輝一（怒らせたことがあるんだな……）

輝二^{ブルブル}

輝一（輝二も小夜を怒らせたことがあるんだな、幼馴染だし……）

スチール「わかりましたよ」（汗）

ポン

ガオモンになつた

ガオスチ「ふう…」

ギギ拓「………」

ピカツ

輝一「なんだ！？」

拓也のデジヴァイスが不気味に光つた

ギギ拓「ビーストスピリットが近くにある…」

ペロ「いす「あ、拓也、待ちなさいよ…！」

拓也の後を追つてみると、怪しげな龍のデジモンがいて、額には闇の騎士のマークがあった

炎デジヴァイス「スカルドラモン ハイブリット体 邪龍型 バリ
アブル種

必殺技はコロナブラスター ファイアーストーム

炎の騎士、ヴリトラモンのなりの果て。ヴリトラモンよりも獰猛で本能でしか動けなくなつたデジモン

ギギ拓「なつ」

ペロ「いす「あれが…ヴリトラモンですつて…？」

ポン

日花莉は、人間の姿に戻った

日花莉「確かにあの骨の形は、ヴリトラモンそのものだけど」

小夜「それに必殺技も、ヴリトラモンと同じ……」

ギギ拓「ぐつ」

? ? ? (たす…けて…くれえ…拓也…たす…けて…くれえ)

ギギ拓「！！」

その時！…突然拓也の頭の中に直接声が聞こえてきた

ギギ拓（ヴリトラモン！？）

キツ

その時！…拓也の目つきが変わった！…

ペヨヨローッ「拓也！？」

ギギ拓「ヴリトラモンを助ける！…」

小夜「そんな…無茶よ…！」

ギギ拓「でも…どんな無茶でも、相棒を…仲間を勇氣を持つて助けなきやいけない時があるんだ！」

その時！…勇氣の紋章が現れ、拓也が金色の光に包まれた

ギギ拓『ギギモン、進化！！』

ギル拓『ギルモン！！』

風デジヴァイス「ギルモン 成長期 魔竜型 ウィルス種
必殺技はファイアーボール ロックブレイカー
腹部に刻まれてるマークはデジタルハザードというデジタルワールドに被害をもたらすが、正義のために使えばデジタルワールドを守護する力が手に入る」

スカルドラモン「ぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐる」

ギル拓一行くぜ！！

ギル拓^テ ファイアーボール

スカルドテモン『ロガニアスター』

ドカーン

アカア「凄い!!あのスカルドラモンと互角だわ」

小夜「ギルモンはテリアモンや、ロップモンとは違う戦闘種族…テリアモンは知能で戦う戦闘種族、でもギルモンは本能で戦う戦闘種族」

輝一「え？」

日花莉「つまりは、拓也はギルモンの本能で戦つてゐつていり」と

ガオスチ「なるほど、同じ本能で戦うから互角といつわけですね」

田花莉「やつこい」とね…それに

スカルドラモン『フレイムストーム』

ギル拓（フレイムストームは全ての集中が尻尾に行く…そこがチャンスだ！…）

田花莉「もともとあのスピリットは拓也のスピリットは拓也とずっといたから弱点も知り尽くしてゐるはずよ…まあ、たとえ知つてたとしてもそれを自分で破るのはあんまいい気はしないだろ？ナビね」

ぼおおおお

ギル拓（今だ！…）

ギル拓『ロックブレイカー』

炎が尻尾に集まつた瞬間、拓也が急接近してきた

ミノ純「拓也！？」

拓也の攻撃が、見事額にクリーンヒットして、闇のマークが壊れた

スカルドラモン「ぐるおおおおおおおおおおおおおお」

スカルドラモンが消え、ウリトラモンが現れた

ポン

拓也は人間の姿に戻った

拓也「ヴリトラモン…」

「ヴリトラモン」拓也…サンキューな

そう言い残すと、デジコードに包まれ、スピリットに戻り、拓也のデジヴァイスに戻った

そして…

拓也「よおーし…」これでダブルスピリットエボリューションができるんだ…」

小夜「それは無理」

拓也「え!?」

日花莉「あ、説明忘れてた、確かにみんなのデジヴァイスは進化してるけど、その反動で通常エボリューション以外はリセットされちゃって…

でもなんかのきっかけがあれば、みんなダブルスピリットはできるわ

小夜「その代わり、バスモンは使えるわよ、リロード、バスモンってデジヴァイスを掲げて言ってみて」

拓也「あ、ああ」

拓也『リロード、バスモン』

そうすると、龍の形のバスモンが出てきた

バスモン「お前が拓也か？おれはバスモンのHON、よろしくな

拓也「ああ、よろしくな」

HON「で、どうあるんだ？せつかく呼び出したんだから乗つけてよ」

日花莉「やうね」

輝一（嫌な予感）

そして、中に入つたら

モワーン

ワニヤ友「あ、暑い」

日花莉「ビーストスピリットを元にデータ化してるからね」

輝一「確かにヴィクトラモンは体に炎を溜めてるからな」

小夜「洸と同等」

輝一「洸？」

田花莉「ことじで、私達と同じスペシシットを使つ者で、太陽の闘士」

小夜「とにかく暑苦しい」

田花莉「せうっ..」

小夜「ナイトクロウは暑このと無黙に暑苦じこのは苦手なのーー。」

田花莉「やうかい」とを言ひし、あんま南の島とかに行かないから、
力ナ（小夜「ギロ」ビクウ）

輝一「はは...」

小夜「いいこと、もし、あんた達がばらしてみなさい、ギリなって
も知らないわよーー。」（ヒソヒソ）

田花莉・輝一「へこへこ」（ヒンヒン）

ワニヤ友「暑い」

拓也「エン、きょうひとつと温度落とせないか？」

エン「んー、温度は下がらないけど窓なら開けれれる」

拓也「頼む」

H「はこよ」

田花莉「とにかくひどい匂がするのー。」

Hン「ここの方向は炎の町だな」

田花莉「炎の町?」

拓也「炎の町かあ」

輝一「俺達が初めてここのデジタルワールドにきた場所だな」

ワニヤ友「ボコモン達に初めて会ったのもそこだよね」

レオルモン「僕もやつと里帰りできる」

輝一「へえー、炎の町ってお前の故郷なんだ」

レオルモン「うん」

ズキン

田花莉「つー?」

いきなり田花莉の腕、つまりサポーターの中の傷が痛み始めた

田花莉（炎の町からケルベロモンの気配がある…でもケルベロモンでもいい奴がいるからたぶんいい奴かもしけないから言わなくていいか）

いつして…田花莉は嫌な予感を膨らませて炎の町に行つたのだった

20話 勇気を見せろー！赤い魔竜、ギルモン！（後書き）

拓也「かなり無理やりな終わらせ方だな」

みづ「だつてえ、終わらせるタイミング失つたんだもん」

田花莉「確かにエンドを出した時点どう終わらせていいか分からないからね」

小夜「つていうかあんまし擬人化組でてなかつたような？」

アクア「そりやそりや

みづ「出すタイミングが分からなかつた」

輝一「はは」（苦笑い）

ガオスチ「つていうかなんですか！！あのキャラ設定は…」（怒）

みづ「だつてえ、なんかメルキューレモンは擬人化したらナルシっぽくなつたんだもん」

ガオスチ「だからつて…」

拓也「長くなつたから俺達で次回予告すつか

友樹「だね」

田花莉「次回はデジモン達がピンチに陥る

小夜「ついでに日花莉もね」

純平「どうなるんだ！！」

みづ・スチール以外「次回もお楽しみに」

ガオスチ「だから」

みづ「分かったから！！次回からは擬人化してもナルシになんない
ようにするから！！」

小夜「賛成」

小夜以外「はあ！？」

といふことで次回からはナルシじゃないといふことで

21話 風邪引き日花莉、ケルベロモン大量襲来、新たな武器を手に！－（

お久しぶりです

今回から書き方を変えます

21話 風邪引き日花莉、ケルベロモン大量襲来、新たな武器を手に！－－

日花莉 side

嫌な予感がする…

なんでこんなに胸騒ぎがするの？

輝「日花莉？」

日花莉「はつ）な、何？」

輝「もう少しで炎の町だ」

日花莉「そつ…」

アクア「どうしたの？」

日花莉「ちょっと体調が優れないだけ…大丈夫」

今言つたのは強ち嘘あながじやない…

それに…はつきりしない事を言つて皆を不安にさせる訳にはいかない…

小夜「日花莉？顔色悪いけど…」

日花莉「大丈夫だよへへ」

小夜「なら、いいんだけど……無理しないで」

日花莉「うん……ありがとっ」

エン「着いたぞ……！」

小夜「此処が炎の町……ねえ」

日花莉「思ったのより暑くない……」（少しガツカリ）

クルモン「クリュ なんかお家の頭に炎がボウボウでクリュ」

輝一「クルモン、あんまり走り回ると迷子になるぞ？」

クルモン「分かつたでクリュ」

ピョウ「いす「久しぶりに来たんだし……別行動にしない？」

一同「賛成」

日花莉「…………」

輝一「日花莉？」

ちょっととフラフラして來た……

輝一「顔色良くないぞ？」

日花莉「……大丈夫……（ゴホ」

輝一「じゃあ俺と一緒に回るか?」

日花莉「いいの?」

輝一「ああ、俺は全然大丈夫だぜ」

日花莉「うん…分かつた^ ^ (ケホ)

小夜「レオルモン、クルモン、たまには私達と一緒に回りましょ
」

クルモン「分かつたでクリュ」

レオルモン「だな」

小夜「輝一も行くわよ」

輝一「え?あ! ?おい!!」

ズルズル

輝一が引きずられていつた…

…所でみんなバラバラに行つてよかつたのかな?

この予感が外れればいいんだけど…

嫌な予感は大抵当たる物なのよね;

輝一「じゃあ…行くか?」

田花莉「え？あー、つん！…」

ドキドキ

なんでこんなにドキドキしてるんだか？…

それに…なんだか懐かしい気が…

輝一 君の事…私…好き…なのかな？

小夜 side

へえ…いい感じじゃない

輝二 おい…こんな事してバレナイのか？

小夜 大丈夫よ

輝二 つたく…何処にそんな根拠が…

小夜 折角の可愛い妹の初デートですもの…姉が見届けなければ…！

輝二 …初デート以前にまだ付き合つてもいないだろ？…

小夜 まだ？まだつていう事は付き合つと思つてゐるのね

輝二 ……本当に疲れる奴だ

小夜 そつとつとは思つていても口に出れない（怒

輝二 はいはい…

小夜 あ……動を出したわよ……追うわよ……

輝二 はいよ

輝一 side

…………はあ

なんでこんなにもドキドキしてんのだ?

ただの旅の仲間の筈なのに…

それに…機から見ればまるで恋人同士のデートじゃないか／＼／

相手は年上だぞ…！

それに…なんだか…とつても…懐かしい

はあ…やつぱり俺が初恋したあの子と比べてるのかな…？

…そういえば…あの子も日花莉と同一年だつたな…

そういえば…日花莉は軽い記憶喪失だけど…まさか…なあ?

…でも…可能性としてはあるな…

実際輝一も小夜と再会したわけだし…

ああーーもうーー分からないよーーー

……はあ……考えていても仕方が無い……とりあえず日花莉の様子が変だからなあ……

今はそれだけを考えよ!…

日花莉 side

日花莉「輝一君?」

輝一「ハツ）なんだ?」

日花莉「いや……何処に向かってるのかな~って思つて」

輝一「…………何処だらう?」

日花莉（ガクツ）

こつそり後を着けている人（ガクツ）

輝一「…………なんか……御免」

日花莉「はは……あんまり詳しくないんだつけ?」

輝一「あ……ああ」

日花莉「まあ……なんとかなるぞ……（ケホケホ」

輝一 「…大丈夫か? もうから咳してるけど…」

日花莉 「私は大丈♂(「ホホホホ」

輝一 「…少し休むか…」

日花莉 「うん…御免(「ホホホホ」

輝一 「熱とかは無いか?」

ピタ

輝一 「熱があるじゃないか…」

日花莉 「だつて…皆に心配かけたくなかつた…」

輝一 「…無理をすると、余計皆に心配かける」とになら…」

? ? ? 「輝一…」

輝一 「…?パタモン!…」

パタモン 「久しぶりハラ」

? ? ? 「輝一ハン!…」

? ? ? 「輝一…」

輝一 「ボコモンにネーモンも…一度よかつた…」

ボノモン「おりょ？ その人はあの時の」

輝一「実は…」

輝一君は事情を説明した

ボノモン「そうなんか…此処からはワシの家が近い…ちょっと休んでいきなはれ…！」

ネーモン「でも…人間は入れないよ…」

輝一「田花莉…デジモンになれるか？」

田花莉「うん…」

ポン ポン

ボノモン「なんと…なんとなんと…人間がデジモンになつてしまわれた！？」

パタモン「輝一ロップモンです」

ロブ一「そんな事はいいから早く…」

ボノモン「とにかく他の皆ハンには知らせなくていいんでかいな？」

ロブ一「…………うーん（チリ）」

輝一 side

なんかせつ きから視線を感じる…

? ? ? (ドキイ)

? ? ? (はあ…)

ロプー「小夜、輝一、クルモンにレオルモンまで…まあ、いいや…
皆に連絡してくれ」

小夜「分かつた!!」

輝一「ああ…！」

そしてボコモンの家

ロプー「大丈夫か?」

ブカ日花「うん…（ゴホゴホ）

ロプー「咳も酷くなつて來たな…」

ドカーン

ボコモン「ななな、なんや!?!?」

ブカ日花「う…ううう…」

ロプー「日花莉?」

レナ小夜「なんですかって!?!ケルベロモンが…分かつた…今す

ぐ行くわ

ロブー「どうした?」

レナ小夜「ケルベロモンが大量に襲撃して来たらしいわ…私、行つて来るから輝一君は日花莉を守つてて」

ロブー「でも…!!」

レナ小夜「私達は大丈夫だからへへじや」

行つてしまつた…

日花莉…

続く

21話 風邪引き田花莉、ケルベロモン大量襲来、新たな武器を手に…

みづ「今日はラブ要素があつたね」

小夜「そうね^ ^」

みづ「田花莉、遂に自分の気持ちに気付いたね」

小夜「うん でも輝一君の言つてた初恋の人つてだれだろ?...」

みづ「うーん...そこいら辺はちやんと考えてあるから大丈夫だ」

小夜「そう...」

みづ「じゃあ次回予告...ケルベロモン襲来!...」

小夜「完全体か...手強いわね」

拓也「力を合わせればなんとかなるぞ!...」

みづ「次回もお楽しみに」

22話 風邪引き日花莉、ケルベロモン大量襲来、新たな武器を手に…

まず、知らない人の為に波動のお深いです（）の中は備考です

大空＝調和（これは希少な波動で全ての匣を開けられるよ）

嵐＝分解（持つてる人は多いよ）

雨＝鎮静（純度100%の炎を浴びると死ぬよ）

雷＝硬化（これを持つてる人は約一人除くマシな人は居ないとと思う）

晴＝活性（傷も直せるよ）

雲＝増殖（これは増殖し続けると大変だよ）

霧＝構築（なんか私的にこの特性は使い難い…あ、この波動を持つてると幻術を使えるよ）

拓也「おい…所々私情が入つてるぞ」

みづ「無視）あ、幻術っていうのは人に幻覚を見せて騙したり無い物を在る物とする有幻覚で攻撃したりする事だよ」

拓也「…匣の説明は？」

みづ「あ、そつか…匣には一種類あつて武器を保存する保存用匣、動物を匣の中から召喚するアニマル匣っていうのがあるよ」

輝二「…順番が違う」

みづ「あ、匣って言つのはリングから放つ炎で開けて、戦うの…分からない所があつたら感想で教えてください」

あ、オリジナルの波動も今回でできますよ

最後の方、ケルベロモンとは関係無いと思われる…

22話 風邪引き日花莉、ケルベロモン大量襲来、新たな武器を手に!!--

小夜 side

小夜「皆ーー！」

拓也「着たかーー！」

小夜「幼年期組は？」

拓也「非難させたーー！」

輝一「来るぞーー！」

小夜輝一拓也アクアウッドロットスチール『スピリット…』

ドシーン

小夜輝一拓也「きや／＼わ?ー！」

突然ケルベロモンが突進して来てその反動でデジヴァイスを落としつしまつたわ

小夜「しまつた?ー！」

私がデジヴァイスを取ろうとしたらケルベロモンに私達のデジヴァイスを取られてしまつたわ

アクア「どうするのよーー！」

小夜「うう……こうなつたら……拓也達は下がっていて……」

拓也「どうするんだ?」

小夜「こうするの……匣開匣……」

月兔
月兔
月兔
月兔

月兔
月兔
月兔
月兔

月兔
月兔
月兔
月兔

月兔
月兔
月兔
月兔

拓也「は……匣から……」

輝二「三羽の兎?」

そう、私の匣の兎は三羽出る様になつてゐ

金色の兎、プラチナ

蒼色の兎、ダイヤ

桃色の兎、パール

因みに月の属性の特徴は補助

小夜「よし……行くわよ……」

兎達「キュー!……」

輝一 side

輝一「……大丈夫か?」

日花莉「ゲホ）……つ、うん…大丈夫…輝…君

輝一「ん？」

日花莉「嫌な…予感が…する…その…袋を…取つて…（ゲホゲホ」

俺は言われたとおり袋を取つた

…つて…いつか日花莉つて袋を持ち歩いてたつけ？

そこは突っ込むなよ…b y 作者

日花莉「えつと…輝一…君…」このリングを…はめて…覚悟を…炎に…するイメージ…」

輝一「い、いきなりなんだ？」

日花莉「いい…から…」

輝一「覚悟を…炎に…」

俺の…覚悟…

皆を…日花莉を…助けたい…！」

ボツ

日花莉「…純度が…高い…えつと…輝一君の…波動…は霧、雲、闇

…」

輝一「……闇？」

日花莉「……そのリングと袋に入っている匣……黒い匣と……髑髏で口一ティングされてる……匣を……上げる……」

輝一「あ、ああ……」

日花莉「……それで……紫色の匣は……紫色の……炎で……藍色の匣は藍色の炎……で……黒の匣は……黒の炎で開けれるわ……」

輝一「……分かつた」

日花莉「『ホホホ』じゃ……早速……やつて見て?」

輝一「……匣開匣!……」

闇ライオン（レオネ・スクーロ）

ブロッチョ・ネッビア

霧槍

スケード・ヌーガオラ

雲盾

輝一「……炎を……纏つてる?」

ライオン「がお（スリスリ）

輝一「わわ（焦り）

日花莉「大丈夫……よ……敵と判断した相手以外は……噛み付かないわ……闇の特性は無……全てを無にするの……」

輝一「無つて……無かつた事にするのか?」

日花莉「…確かに危険な特性だけど…使い様によつては傷も直す事ができるわ…」

ライオン「がお 」

日花莉「…それより…名前を付けてあげたら? (ゲホ)

輝一「名前…レオ?」

レオ「がお 」

日花莉「…お願い…監督を…助けに行つて…上げて…」

輝一「で、でも?」

日花莉「お願い…」

真っ直ぐな青い瞳で俺を見る日花莉

…仕方ない…

輝一「…分かつた…レオルモン!! クルモン!! ボコモン!! ネモン!! パタモン!! 日花莉を頼む!!」

レオルモン「分かつた!!」

クルモン「分かつたでクリゴ」

ボコモン「ワシ等に任せんしゃい!!」

ネーモン「頑張つてね」

パタモン「分かつたです」

輝一「レオ！…行くぞ…！」

レオ「がう！…」

小夜 side

「く…やつぱり一人で戦つのは…キツイ…
確かに数は格段に減つてきてるけど…
どうすれば…

? ? ? 「はあああ…！」

え？ 輝一君…？

輝一「ふう…槍を使い慣れてよかつた…」

小夜「輝一君？…日花莉は？！」

輝一「ん？…その日花莉に頼まれて此処に来たんだ…それより…は
い」

小夜「デジヴァイス？！」

輝一「やつを倒したケルベロモンが持つてた

小夜「よし……底……行くわよ……！」

拓也「あ、ねう……」

一同「『スピリットエボリューション…』

アグニモン「『アグニモン…』」

ヴォルフモン「『ヴォルフモン…』」

レーベモン「『レーベモン…』」

ムーンラビモン「『ムーンラビモン…』」

ラーナモン「『ラーナモン…』」

メルキュー・レモン「『メルキュー・レモン…』」

グロットモン「『グロットモン…』」

アルボルモン「『アルボルモン…』」

レオ「ガウ…！」

プラチナ「キュウ…！」

ダイヤ「キュ～」

パール「キューきゅーーー！」

レーベモン「…？武器が匣兵器のままだ…？」

ムーンラビモン「あ…やつこえは武器を出したまま進化するの初めてだった」

レーベモン「…………（汗）」

ムーンラビモン「…行くわよーーー！」

レーベモン said e

…今ムーンラビモン、誤魔化しただろ…

…まあ、いいか…

匣兵器を出したまま進化した場合は名前の横にFMと表記します
：何故ならレーベモン達の体にも少し炎を纏つてるからです。FM

ケルベルモント「『ヘルファイアーーー』」

レーベモンFM「はあーーー！」

俺は槍を振り回しぶガードした…

レーベモンFM「ふう…」

ムーンラビモンFM「『ムーンラビッシュショーター』」

レーベモンFM「『ハントリビ・メテオール...』」

ドカーン

一同「！？！？」

レーベモンFM「凄い威力だ.....」

ムーンラビモンFM「でもせつと片付けないと、私達がヤバイかもね」

レーベモンFM「ああ…何故だか知らんがいつもより体力の消費が激しい...」

ラーナモン「『レインストリーム...』」

アルボルモン「『機銃の踊り（マシンガン・ダンス）』」

メルキューレモン「『ジエネラス://ワード』」

グロットモン「『スネークアイブレイク...』」

ヴォルフモン「『ソーラービーム...』」

アグニモン「『バーニングサラマンダー...』」

ムーンラビモンFM「『ムーンラビッシュトショート...』」

レーベモンFM「『ハントリビ・メテオール...』」

ドカーン バーン ドゴーン ジャー ボオオ ババーン ドガーン

戦闘シーン割合 b yFsy((殴蹴技

なんか登場シーンみたいな効果音が在ったけどあえてスルー

輝「さて…じゃあボコモン達に戻るか…」

ピヨコ「いす「ボコモン達に久々に会えるのね」

拓也「だな」

…疲れた…

輝「「ボコモン達と会える事を喜ぶのはいいが先ず日花莉の心配をしろよ…」

ボコモンハウス

輝「日花莉、大丈夫か?」

日花莉「まあね…ボコモン達が譲つてくれたから…」

小夜「そう…でもボコモンは戦えそうにないけど…」

ボコモン「失礼な!!ワシ等だつてだてに数百年生きとらんハラ」

純平「す、数百年…」

小夜「あんた達の世界では一年でもデジタルワールドでは数百年だ

からね「

アクア「あんた達と違つて私達デジモンは寿命で死んだりはしないからね」

ロジト「ま、その代わり弱肉強食の世界だけどな」

ペヨウ「いづ「私、ボコモン達が進化している姿見てみたいな」

日花莉「…その前に輝一君、小夜以外の人間組の波動を調べたいからちょっと待つて（ゲホゲホ」

輝一「そういえば詳しく話して貰つてないけど…波動ってなんだ？」

小夜「波動っていうのは言わば体の中に流れてる生命エネルギーみたいなもの…わざだしてた炎は覚悟の炎…またの名は死ぬ気の炎」

輝一「だからさつきあんなに疲れたのか…」

小夜「そう…生命エネルギーを外に駄々漏れしてる様な物だからね…無闇に使う訳にも行かないわ」

輝一「そうだな…」

小夜「で、波動と言つても人それぞれ違う物」

輝一「違う?」

小夜「そう…種類、純度、数…色々違う物…因みに私は月、雲、嵐」

日花莉「…私は大空の七属性と花…花の特性は治癒…（ゴホゴホ」

輝一「…で俺が闇、雲、霧？」

日花莉「そうなる…（ゴホゴホ」

小夜「今から属性を調べるからこのリングを付けて」

拓也「俺は…」

小夜「嵐、大空、炎…炎の特性は発酵」

拓也「発酵ねえ…」

輝二「俺は…」

小夜「輝二は雲、雨、光…光の特性は浸透…」

輝二「ふーん…」

アクア「アタシは？」

小夜「雨、晴、水…特性は水圧」

アクア「水圧…ね」

ロジト「俺は？」

小夜「…雷、嵐、土…特性は切断」

ロジト「分りやすいな」

ウツビ「.....」

小夜「雨、雲、木…特性は硬直」

ウツビ「.....」

小夜「.....」

スチール「私は…？」

小夜「雲、霧、鋼…特性は鋼鉄」

スチール「そうなんですか.....」

日花莉「うーん…じゃあ匣はこれとこれ、これ…かな（ケホケホ）

カタカタ

ん?

輝一「…？レオも出たいのか？」

一同・デジモン組「匣開匣！！」

輝二
スパーダ・ディ・ピオッジヤ
雨双剣

雲ナイフ（フチーレ・ヌーヴォラ）
ルーポ・キアーロ
光狼

拓也
ブンヤーレ・テンベスター

嵐剣
シュリケン・フィルマメント

大空手裏剣
ドライゴ・ヴァンボ

炎竜

アクア
ヴェルガ・ディ・ビオッジャ

雨鞭
フレット・セレーモ

晴弓矢

水イ力（カラマイヨ・アックア）

ロット

雷棍棒
ランティッロ・フォールミネ

嵐鎌
ロンゴラ・テンベスター

土犬
カーネ・テツラ

ウツド

雨機銃
ミトウラツリヤトーレ・ビオッジャ

雲弾丸
ブロイエット・ヌーゴオラ

木トカゲ（ステッリオーネ・アルベロ）

スチール

雲鏡
スペコロ・ヌーウオラ

霧ジヤグリング（ジヨコレリーア・ネッビア）
ティーグレ・アッチャイオ

鋼寅

闇ライオン（レオネ・スクーロ）

スチール「…この鏡は何に使うのでしょうか？」

小夜「それは盾に使うのよ

スチール「成る程…」

輝二「狼…」

狼「ガウ…」

輝一「名前を付けてやれば?」

小夜「そうそう、この子達もペッシュと同じなんだから
」

輝二「…ルキア?」

小夜「へえ…輝二にしてはいい名前じゃない」

ルキア「ワン」

ワンって…犬か?

拓也「なんで竜?…まあいいや…ドーラ!ドーラ!…」

ドーラ、「…」

拓也「はは…」

アクア「…スズ?」

スズ「キョーン…」

ロジト「じゃあお前は今日からポチだー！」

ポチ「ワンー！」

ウツド「…………」

陰「…………」

スチール「：バイラーです」

バイラー「ガオオオオオーー！」

日花莉「私も…（ケホケホ」

力チャ

花猫ガッタ・フィオリトゥーラ

あ…やつぱり猫か…

田花莉「フィオ…行つておいで」

フィオ「にゃあ…」

日花莉「さ…」

フィオ「にゃん…」

小夜「あ…そうだ…薬を渡して置くわ…すぐによくなるわよ？」

日花莉「有難う……」

輝一「それ、小夜のお手製か?」

小夜「当然!—!」

輝一「本当に」ひつひつのつまいな……」

小夜「まあね」

輝一「はは……何時の間に作つたんだ?」

日花莉「小夜の薬は効くからね……」

輝一「小さい時から薬作るの上手かつたからな……」

ボコモン「……じゅあ行くハラ!—!—!

ネーモン「ネー」

パタモン「です〜」

続く

22話 風邪引き日花莉、ケルベロモン大量襲来、新たな武器を手に…

一同「中途半端～」

みづ「だつて…これ以上やつたらなんかオチが分んなくなる気がしてんだもん～」

ボコモン「再登場ハラ…！」

ネーモン「ネー！」

ボコモン「お前はそれしか言えんのか…！」

パツチン

ネーモン「痛～」

みづ「はは…次回はいよいよボコネーパタが進化する…！」

ネーモン「俺達の活躍見てね～」

ボコモン「見るハラ…！」

一同「次回もお楽しみに」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0959u/>

パラレルフロンティア

2012年1月10日21時54分発行